

高等学校 保健体育

体育学習ハンドブック

～学習指導と評価の計画作成の手引き～

平成 25 年 3 月

 神奈川県立体育センター
Kanagawa Pref. Taiiku Center est. 1968

発刊にあたって ～体育学習の授業改善のために～

- 授業改善は、私たち一人ひとりが授業に対する課題意識を持ち、解決に向けて研鑽に励むことにより実践されます。
- そのためには、校内研修や校外研究会等へ積極的に参加し、互いに授業公開や研究協議等に取り組むことが重要となります。
- このことを踏まえ、この度体育センターでは、校内研修や授業研究で手軽に活用できる体育学習ハンドブックを新たに作成しました。

活用にあたって

- 本ハンドブックは、新しい高等学校学習指導要領に準拠した単元計画や時案を作成するための方法を示すとともに、体育学習の授業づくりに関する必要な知識をまとめて示しています。
- Q&A方式になっていますので、フォーマットの解説で、分からないこと、詳しく知りたい所についてはQを参考に該当ページを参照してください。
- 授業づくりの基礎・基本を再確認するとともに、高等学校学習指導要領解説を手元に置き、日々の授業づくりや、研修・研究の資料作成等に活用してください。
- 活用にあたっては、まず、文部科学省のHP等で、新しい高等学校学習指導要領の改訂の趣旨、改善点、変更点の確認をお願いします。

目次

1 学習指導と評価の計画（運動に関する領域）フォーマットと記載例	1
Q1 学習指導と評価の計画とは	1
2 単元計画について	11
Q2 体育学習の単元とは	11
Q3 単元計画とは	11
Q4 単元の目標とは	12
Q5 入学年次・その次の年次以降の単元の目標はどのように立てればよいか	12
Q6 単元の目標が入学年次とその次の年次以降で違うのはなぜか	14
Q7 「知識」の単元の目標が入学年次とその次の年次以降が同じなのはなぜか	15
Q8 指導内容は何を基に考えたらよいか	16
Q9 教えることが多くて、単元の中で十分指導できないが、どうすればよいか	16
3 高等学校学習指導要領解説の読み方 H 体育理論	17
Q10 体育理論の知識の内容は、どこに示されているか	17
4 指導と評価について	17
Q11 学習過程、指導内容と評価の関係とは	17
Q12 「技能」と「態度」の評価時間が指導時間とずれているのはなぜか	18
Q13 どのように評価したらよいか	19
Q14 指導と評価の一体化とは	19
5 新しい評価の考え方について	20
Q15 指導内容と評価規準を記載するときに、表記や順番が違うのはなぜか	20
6 評価規準について	21
Q16 評価規準とは	21
Q17 単元の評価規準を設定するには	23
Q18 評価から評定にはどのように結び付ければよいか	24
7 学習指導の工夫について	25
Q19 学習指導の工夫にはどのようなものがあるか	25
8 時案について	27
Q20 時案とは	27
Q21 本時のねらい（目標）とは	27
Q22 本時の評価とは	27
Q23 学習内容とは	28
Q24 学習活動とは	30
Q25 発問とは	30
Q26 つまずいている生徒への手立てとは	31
Q27 学習内容から学習活動はどのように設定したらよいか（運動に関する領域）	32
9 学習指導と評価の計画（知識に関する領域）フォーマットと記載例	35
10 学習指導要領改訂について	41
11 学校における体育・保健体育の位置付け	43

1 学習指導と評価の計画（運動に関する領域）フォーマットと記載例

Q1 学習指導と評価の計画とは

単元計画（単元全体の計画）＋時案（1単位時間の計画）の事を指します。

ここでは、当体育センターが作成したフォーマット（運動に関する領域）に沿って、作成方法や基本的な考え方を示していきます。Q&Aの形で示していますので、用語の説明や書き方の詳細は、右のQを参考に、該当するページを参照してください。

フォーマットと解説

保健体育科（体育 運動に関する領域）
学習指導と評価の計画

【単元計画】

1 単元名

単元名について

- 「領域」「型：種目」または「種目」を記載します。

2 対象 年 組 名

3 期間 平成 年 月 日（ ）～ 月 日（ ）

4 場所

5 単元の目標

(1)

単元の目標について

- 『高等学校学習指導要領の内容』から語尾を「～できるようにする。」に変えて記載します。
※ 目標は、高等学校学習指導要領解説に準じて、「技能」「態度」「知識、思考・判断」に分けて示します。
注) 入学年次では、目標が変わります。
注) 当該年次で扱わないものは（ ）でくくります。

(2)

(1) 『技能（体づくり運動は「運動」）』の目標『ア・イ・（ウ・エ・オ）』については、『高等学校学習指導要領解説』の各年次のねらいに関する説明文（球技のネット型なら高等学校学習指導要領解説P65）から記載します。

(2) 『態度』の目標

入学年次で作成する場合は、『高等学校学習指導要領の内容』を『高等学校学習指導要領解説P20』の各段階で示した（2）態度の主な表記の『中学校3年・高校入学年次』の表記に変えて記載します。

(3)

(3) 『知識、思考・判断』の目標

入学年次で作成する場合は、『思考・判断』の内容は『高等学校学習指導要領の内容』を『高等学校学習指導要領解説P21』の各段階で示した（3）知識、思考・判断の主な表記の『中学校3年・高校入学年次』の表記に変えて記載します。

Q1 P1
「学習指導と評価の計画とは」

Q2 P11
「体育学習の単元とは」

Q3 P11
「単元計画とは」

Q4 P12
「単元の目標とは」

Q5 P12
「入学年次・その次の年次以降の単元の目標はどのように立てればよいか」

Q6 P14
「単元の目標が入学年次とその次の年次以降で違うのはなぜか」

Q7 P15
「『知識』の単元の目標が入学年次とその次の年次以降が同じなのはなぜか」

注：この記載例では、すべての指導内容を扱うこととしています。（P4参照）

記載例

保健体育科（体育 運動に関する領域）学習指導と評価の計画

指導者 体育 一郎

【単元計画】

1 単元名 E 球技（バレーボール）

2 対象 1年1組 36名（男子18名・女子18名）

3 期間 平成25年9月9日（月）～11月8日（金）

4 場所 体育館

5 単元の目標

(1) 次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めてゲームが展開できるようにする。

イ ネット型では、役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開すること。


(2) 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、自己の責任を果たそうとすること、話合いに貢献しようとするなどや、健康・安全を確保することができるようにする。

(3) 技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解し、チームや自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。

6 単元の指導内容

指導内容			
<技能>	<態度>	<知識>	<思考・判断>
<p><u>ボールや用具の操作</u></p> <p>①サーブではボールをねらった場所に打つこと。</p> <p>②ボールを相手側のコートに空いた場所やねらった場所に打ち返すこと。</p> <p>③攻撃につなげるための次のプレイをしやすい高さや位置にボールを上げること。</p> <p>④ネット付近でボールの侵入を防いだり、打ち返したりすること。</p> <p>⑤腕を強く振って、ネットより高い位置から相手側のコートに打ち込むこと。</p> <p>⑥ポジションの役割に応じて、捨ったりつないだり打ち返したりすること。</p> <p><u>ボールを持たないときの動き</u></p> <p>⑦ラリーの中で、味方の動きに合わせてコート上の空いている場所をカバーすること。</p> <p>⑧連携プレイのための基本的なフォーメーションに応じた位置に動くこと。</p>	<p>①バレーボールの学習に自主的に取り組むこと。</p> <p>②フェアなプレイを大切にしようとする。</p> <p>③自己の責任を果たそうとすること。</p> <p>④話合いに貢献しようとする。</p> <p>⑤互いに助け合い教え合おうとする。</p> <p>⑥健康・安全を確保すること。</p>	<p>①バレーボールの技術などの名称や行い方</p> <p>②バレーボールの体力の高め方</p> <p>③バレーボールの課題解決の方法</p> <p>④バレーボールの競技会の仕方</p>	<p>①提供された作戦や戦術から自己のチームや相手チームの特徴を踏まえた作戦や戦術を選ぶこと。</p> <p>②仲間に対して、技術的な課題や有効な練習方法の選択について指摘すること。</p> <p>③作戦などの話合いの場面で、合意を形成するための適切ななかかわり方を見付けること。</p> <p>④健康や安全を確保するために、体調に応じて適切な練習方法を選ぶこと。</p> <p>⑤球技を継続して楽しむための自己に適した関わり方を見付けること。</p>

6 単元の指導内容

<技能>	<態度>	<知識>	<思考・判断>
<p>指導内容について</p> <p>※ 高等学校学習指導要領の表記及び高等学校学習指導要領解説の<例示>から指導内容を記載します。</p> <p><技能></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 『高等学校学習指導要領解説の例示』を記載します。 <p><態度></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「単元の目標」で（ ）でくくったもの以外の内容の語尾を「～こと。」と書きかえて記載します。 ● 共通事項（自主的、主体的）は「種目」が分かるように記載します。⇒「バレーボールの学習に（自主的・主体的）に取り組むこと。」 ● 『高等学校学習指導要領解説の態度の内容』の『～など』に関する具体的な内容も記載します。 <p><知識></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「単元の目標」で（ ）でくくったもの以外の内容を記載します。 ● 「種目」が分かるように記載します。⇒「バレーボールの～。」 ● 『高等学校学習指導要領解説の知識の内容』の『～など』に関する具体的な内容も記載します。 <p><思考・判断></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 『高等学校学習指導要領解説の例示』を記載します。 			
			

Q8 . . . P16
「指導内容は何を基に考えたらよいか」

Q9 . . . P16
「教えることが多くて、単元の中で十分指導できないが、どうすればよいか」

注：この記載例では、指導内容を扱うものと扱わないものに分けて示しています。

記載例

(P2参照)

保健体育科（体育 運動に関する領域）学習指導と評価の計画

指導者 体育 一郎

【単元計画】

1 単元名 E 球技（バレーボール）

2 対象 1年1組 36名（男子18名・女子18名）

3 期間 平成25年9月9日（月）～11月8日（金）

4 場所 体育館

5 単元の目標 ※（ ）でくくったものは、当該年次では扱いません。

(1) 次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めてゲームが展開できるようにする。

イ ネット型では、役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開すること。

(2) 球技に自主的に取り組むとともに、（フェアなプレイを大切にしようとする）、自己の責任を果たそうとすること、話合いに貢献しようとするなどや、健康・安全を確保することができるようにする。

(3) （技術などの名称や行い方）、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解し、チームや自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。

6 単元の指導内容

指導内容			
<技能>	<態度>	<知識>	<思考・判断>
<p>ボールや用具の操作</p> <p>①サーブではボールをねらった場所に打つこと。</p> <p>②ボールを相手側のコートに空いた場所やねらった場所に打ち返すこと。</p> <p>③攻撃につなげるための次のプレイをしやすい高さや位置にボールを上げること。</p> <p>④ネット付近でボールの侵入を防いだり、打ち返したりすること。</p> <p>⑤腕を強く振って、ネットより高い位置から相手側のコートに打ち込むこと。</p> <p>⑥ポジションの役割に応じて、捨ったりつかないたり打ち返したりすること。</p> <p>ボールを持たないときの動き</p> <p>⑦ラリーの中で、味方の動きに合わせてコート上の空いている場所をカバーすること。</p> <p>⑧連携プレイのための基本的なフォーメーションに応じた位置に動くこと。</p>	<p>①バレーボールの学習に自主的に取り組むこと。</p> <p>②自己の責任を果たそうとすること。</p> <p>③話合いに貢献しようとする。</p> <p>④互いに助け合い教え合おうとする。</p> <p>⑤健康・安全を確保すること。</p>	<p>①バレーボールの体力の高め方</p> <p>②バレーボールの課題解決の方法</p> <p>③バレーボールの競技会の仕方</p>	<p>①提供された作戦や戦術から自己のチームや相手チームの特徴を踏まえた作戦や戦術を選ぶこと。</p> <p>②仲間に対して、技術的な課題や有効な練習方法の選択について指摘すること。</p> <p>③作戦などの話合いの場面で、合意を形成するための適切なかわり方を見付けること。</p> <p>④健康や安全を確保するために、体調に応じて適切な練習方法を選ぶこと。</p> <p>⑤球技を継続して楽しむための自己に適した関わり方を見付けること。</p>

フォーマットと解説

7 学習過程・指導と評価の計画

時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
学習過程	10	<p><u>学習過程</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 1単元を入学年次（1年次）は15～20時間程度をその次の年次以降（2年次・3年次）は、生徒が学習内容の習熟を図ることのできる時間を配当し作成します。 ● 単に練習やゲームと記載するのではなく、学習活動の工夫がある程度分かるように作成します。 														
	20															
	30															
	40															
	50															



時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
指導時期	技能	<p><u>指導の計画</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「いつ」「何を」指導するのかが分かるように、指導の重点日として「6 単元の指導内容」の丸数字を各時間に記載します。 ● 指導時期は、上の学習過程とリンクするようにしましょう。 ● 「思考・判断」については、「技能」や「知識」がある程度身に付いてから指導するようにしましょう。 ● 「態度」の安全に関することは、単元の前半で指導するようにしましょう。 														
	態度															
	知識															
	思考判断															



「技能」「態度」は評価の時期がずれます

時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
評価時期	運動の技能	<p><u>評価の計画</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 指導したことを「いつ」評価するかが分かるように、評価の重点日として「6 単元の指導内容」の丸数字を各時間に記載します。 ● 評価項目は、1時間に1～2個程度とします。 ● 観察で評価するものは、1時間に二つ以上設定しないようにしましょう。 ● 指導した「技能」「態度」の項目は、原則、指導時間より後に評価するようにしましょう。 ● 観察評価をする場合は、学習過程に評価を見取れる学習活動があるか確認しましょう。 														
	関心・意欲・態度															
	知識・理解															
	思考・判断															

Q11 ……P17
「学習過程、指導内容と評価の関係とは」

Q9 ……P16
「教えることが多くて、単元の中で十分指導できないが、どうすればよいか」

Q12 ……P18
「『技能』と『態度』の評価時間が指導時間とずれているのはなぜか」

Q13 ……P19
「どのように評価したらよいか」

Q14 ……P19
「指導と評価の一体化とは」

総

注：この記載例では、すべての指導内容を扱うこととしています。（P8参照）

記載例

7 学習過程・指導と評価の計画

	時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
学習過程	オリエンテーション	準備運動 ストレッチ 本時の内容の確認																			
		復習としての活動 対人パス				基本練習 パスのドリル練習												班別リーグ戦			
		ためしのゲーム				サーブ		フスロパツイクク		基本練習 (ボールを持たないときの動き)		課題別練習									
						ゲームⅠ 場やルールを工夫 ・ラリーゲーム		ゲームⅡ 場やルールを工夫 ・バドミントンコート を利用 ・3対3 ・4対4		ゲームⅢ 課題確認をする ・ゲーム記録											
						片付け 整理運動 学習の振り返り															

	時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	総
指導時期	技能					①	②	⑤	④		⑦			③	⑥	⑧						
	態度		⑥	①		③					⑤			④				②				
	知識	②	①									③	④									
	思考判断								④						①	②			③		⑤	
評価時期	運動の技能						①		②	⑤				④		③		⑥	⑦	⑧		
	関心意欲態度							⑥				③	①	⑤		④						②
	知識理解	②	①									③	④									
	思考判断								④							①	②			③		⑤

8 単元の評価規準と評価方法

《関心・意欲・態度》	《思考・判断》	《運動の技能》	《知識・理解》
指導内容<態度>	指導内容<思考・判断>	指導内容<技能>	指導内容<知識>
①～⑤を ⑥を	①～⑤を	①～⑧が	①～④について
～しようとしている ～している	～している	～できる	～、学習した具体例を挙げている ～、言ったり書き出したりしている
【観察】	【学習ノート】 【観察】	【観察】	【学習ノート】 【観察】

9 学習指導の工夫

(1) 学習過程の工夫

・単元前半で、基礎的・基本的な技能の習得を目指し、単元後半では、チーム別課題練習を行うようにする。

(2) 学習の場の工夫

・バドミントンコートを活用し、動き方をより理解できるように指導する。

(3) 学習資料の工夫

・学習ノートやグループカードを作成し、思考・判断ができるように工夫する。

(4) その他

・安全について、授業での決まりを作り、守ることができるように指導する。

フォーマットと解説

8 単元の評価規準と評価方法

《関心・意欲・態度》 【観察】	《思考・判断》 【ノート】【観察】	《運動の技能》 【観察】	《知識・理解》 【ノート】【観察】
指導内容 ＜態度＞	指導内容 ＜思考・判断＞	指導内容 ＜技能＞	指導内容 ＜知識＞
①～⑤を ⑥を	①～⑤を	①～⑧が	①～④について

評価規準について

※ 指導内容を評価の観点別に置きかえ、語尾を書きかえます。
注) 機械的な作業になりますので、記載しません。

《関心・意欲・態度》

- 愛好的態度、社会的態度については、語尾が「～しようとしている。」となります。
- 健康・安全の態度については、意欲をもつことにとどまらず、実践することが求められていることから、語尾が「～している。」となります。

《思考・判断》

- 語尾が「～している。」となります。

《運動の技能》

- 語尾が「～できる。」となります。

《知識・理解》

- 評価の見取り方に応じて語尾をかえます。「～について、学習した具体例を挙げている。」「～について、言ったり書き出したりしている。」となります。



～しようとし ている	～してい る	～している	～できる	～、学習した具体例を 挙げている ～、言ったり書き出し たりしている
---------------	-----------	-------	------	---

9 学習指導の工夫

(1) 学習過程の工夫

(2) 学習の場の工夫

(3) 学習資料の工夫

(4) その他

学習指導の工夫について

- 生徒が効率よく学習内容を身に付けることができるように、教師が考えた工夫について、それぞれの項目に分けて記載します。特にない場合については、空欄とします。



Q15 . . . P20

「指導内容と評価規準を記載するときに、表記や順番が違うのはなぜか」

Q16 . . . P21

「評価規準とは」

Q17 . . . P23

「単元の評価規準を設定するには」

Q18 . . . P24

「評価から評定にはどのように結び付ければよいか」

Q19 . . . P25

「学習指導の工夫にはどのようなものがあるか」

注：この記載例では、指導内容を扱うものと扱わないものに分けて示しています。

(P6参照)

記載例

7 学習過程・指導と評価の計画

	時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20		
学習過程	オリエンテーション	準備運動 ストレッチ 本時の内容の確認																					
		10		復習としての活動・対人パス		基本練習 パスのドリル練習														班別リーグ戦			
		20		ためしのゲーム		サーブ		ブソロパツイクク		基本練習 (ボールを持たないときの動き)		課題別練習											
		30																					
		40				ゲームⅠ 場やルールを工夫 ・ラリーゲーム		ゲームⅡ 場やルールを工夫 ・バドミントンコート を利用 ・3対3 ・4対4		ゲームⅢ 課題確認をする ・ゲーム記録													
50		片付け 整理運動 学習の振り返り																					

	時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	総
指導時期	技能					①	②	⑤	④		⑦			③	⑥	⑧						
	態度		⑤	①		②					④			③								
	知識	①										②	③									
	思考判断								④						①	②			③		⑤	
評価時期	運動の技能						①		②	⑤				④		③		⑥	⑦	⑧		
	関心意欲態度							⑤			②	①	④		③							
	知識理解	①										②	③									
	思考判断								④							①	②			③		⑤

8 単元の評価規準と評価方法

《関心・意欲・態度》	《思考・判断》	《運動の技能》	《知識・理解》
指導内容<態度>	指導内容<思考・判断>	指導内容<技能>	指導内容<知識>
①~④を ~しようとしている	①~⑤を ~している	①~⑧が ~できる	①~③について ~、学習した具体例を挙げている ~、言ったり書き出したりしている
【観察】	【学習ノート】 【観察】	【観察】	【学習ノート】 【観察】

9 学習指導の工夫

(1) 学習過程の工夫

・ 単元前半で、基礎的・基本的な技能の習得を目指し、単元後半では、チーム別課題練習を行うようにする。

(2) 学習の場の工夫

・ バドミントンコートを活用し、動き方をより理解できるように指導する。

(3) 学習資料の工夫

・ 学習ノートやグループカードを作成し、思考・判断ができるように工夫する。

(4) その他

・ 安全について、授業での決まりを作り、守ることができるように指導する。

フォーマットと解説

フォーマット

【本時の展開】（ / 時間）

(1) 本時のねらい

< > (評価: / 時間)

本時のねらい

- 「6 単元の指導内容」から、< >に指導の項目と丸数字、その次に語尾を「~できるようにする。」に変えて本時のねらいとして記載します。
- 後日評価をする場合は、評価予定日を（評価: / ）に記入します。
- 「7 学習過程・指導と評価の計画」と合っているかを確認します。
- 「7 学習過程・指導と評価の計画」に指導の計画が設定されていない時間の場合は、本時の中心的な指導内容を想定して記載しましょう。


(2) 本時の評価

<< >> 【 】 (指導: / 時間)

本時の評価

- 「6 単元の指導内容」から、<< >>に評価の観点と丸数字、その次に語尾を「8 単元の評価規準と評価方法」によって変えた評価規準を記載します。
- 【 】に評価方法を記入します。
- 事前に指導した場合は、指導実施日を（指導: / 時間）に記入します。
- 「7 学習過程・指導と評価の計画」と合っているか確認します。
- 「7 学習過程・指導と評価の計画」に評価の計画が設定されていない時間の場合は、本時の中心的な評価を想定して記載したり、項目そのものを削除したりしましょう。

(3) 展開

	生徒の学習内容・活動	教師の指導・手立てと評価
はじめ	1活動 学習内容・活動 ● 学習内容を身に付けるための活動を時系列で示します。	○ 教師の指導・手立てと評価 ● 「指導」として生徒の活動を促す内容を記載し、「手立て」として生徒の活動をフォローする内容を記載します。 ● 教師の指導・手立ては、語尾を「~する。」とし「~させる。」は用いないようにします。
	学習内容 ● 本時の指導内容と学習内容がリンクしているか、学習内容が活動になっていないか確認します。 ● < >に本時の指導内容の項目と丸数字を記入し、指導内容をより具体化して語尾を「~こと。」と記載します。 ● 各活動ごとに分けて記載してもよいです。	
なか	【学習内容】 < >	
	2活動 【発問】 < > ○ 本時の学習の学習内容に即した活動 ● < >に指導内容の項目と丸数字を記載します。 ● 学習内容に即した活動を記載します。	発問 ● 思考を促す【発問】と【予想される答え】を整理しておきます。 ● 活動ごとに【発問】が考えられるとよいです。 ● 【発問】は、指導の流れを作るもので、必ず示さなければならないわけではありません。
まとめ	3活動 ○ 	<< >> 本時の評価 ● << >>に評価の観点と丸数字を記載します。
	4活動 POINT ○ 生徒の学習活動を考えるときには、本時の学習内容を生徒がよりよく身に付けることができる活動になっているか、また、本時の評価を見取ることができる活動になっているかを考えることが大切です。	

Q20 . . . P27
「時案とは」

Q21 . . . P27
「本時のねらい（目標）とは」

Q22 . . . P27
「本時の評価とは」

Q23 . . . P28
「学習内容とは」

Q24 . . . P30
「学習活動とは」

Q25 . . . P30
「発問とは」

Q26 . . . P31
「つまづいている生徒への手立てとは」

Q27 . . . P32
「学習内容から学習活動はどのように設定したらよいか（運動に関する領域）」

記載例

【本時の展開】（7/20時間）

（1）本時のねらい

<技能⑤>腕を強く振って、ネットより高い位置から相手側のコートに打ち込むことができるようにする。
（評価：9/20時間）

（2）本時の評価

≪関心・意欲・態度⑤≫健康・安全を確保している。【観察】（指導：2/20時間）

（3）展開

	生徒の学習内容・活動	教師の指導・手立てと評価
はじめ 10分	1 集合・整列・挨拶・出席確認 2 本時の説明 3 準備運動	○ 生徒の出席確認を行い、生徒の健康状態を把握する。 ○ 本時の学習のねらいや授業の進め方を説明し、自己の課題を立て、学習ノートに記入できるようにする。
なか 30分	4 バスのドリル ・2人組での対人バス ・チームでのランニングバス 【学習内容】 <技能⑤>両腕の振り上げから、リードした腕を脇を締めるように強く引きつけ、ボールの上部をたたくように打ち込むこと。	○ バスが連続何回できるか、数を数えるように指導する。 ○ バスが続かないチームには、オーバーハンドパス、アンダーハンドパスのポイントを確認する。
	5 スパイク<技能⑤> ○ 2人組 ・相手から投げられたボールをジャンプして自分の最高点でキャッチする。 ・最高点でミートして、ワンバウンドで相手に返す。	○ キャッチするときは、自分の頭より前で取るように指導する。 ○ 最高点でキャッチできない場合は、低いボールを投げて、踏み切りのタイミングがつかめるように指導する。 ○ ボールを床に転がしたままにしないよう声を掛けて指導する。
	【発問】 相手コートに強いスパイクを打つためには、両手をどのように使ったらよいだろう。 【予想される答え】 ・打つ手と反対の手を強く引いて打つ。 ・打つ手を後ろに大きく引き、力いっぱい打つ。	
	○ チーム別 ・助走と踏み切りを確認する。 ・セッターがボールを投げ上げ、スパイクを打つ。 ・スパイカー、セッター、ボール拾いをローテーションで行う。	≪関心・意欲・態度⑤≫ ○ ネットの高さは、2m10cmに設定する。 ○ ミートができない生徒には、個別に、ミートポイントの確認をする。
	6 ゲームⅠ ○ チームを3対3に分けて行う。 ○ ラリーの回数を数える。	○ 3段攻撃を意識できるようにする。（1回で返さない） ○ ラリーを続けることを意識するように指導する。
まとめ 10分	7 本時のまとめ ○本時の学習を振り返る。 ○学習ノートの記入をする。 8 次回の確認・挨拶	○ 本時の学習のポイントを振り返り、説明する。 ○ 巡回しながら学習ノートの記入を確認する。 ○ 怪我等の確認をする。 ○ 次回の授業のねらい等を説明する。

2 単元計画について

Q2 体育学習の単元とは

学習内容を断片的にではなく、有機的なひとまとまりとして組織したものを単元といいます。

○ 運動に関する領域¹³⁾ ※

表1 運動に関する領域の単元について

校種	小学校	中学校	高等学校
教科	体育	保健体育	保健体育
科目	—	—	体育
分野	—	体育	—
内容のまとめり(領域)	E ボール運動	E 球技 F 武道等	E 球技 F 武道等
単元	5年 サッカー 6年 ソフトボール	1年 サッカー 2年 バレーボール 3年 柔道等	入学年次 サッカー その次の年次 バレーボール それ以降の年次 柔道等



※文章中の上付き半角数字は、引用、参考文献を指しています。

○ 知識に関する領域^{11) 13)}

表2 知識に関する領域の単元と小単元について

校種	中学校	高等学校
教科	保健体育	保健体育
科目	—	体育
分野	体育	—
内容のまとめり(領域)	H 体育理論	H 体育理論
単元	1年 運動やスポーツの多様性 2年 運動やスポーツが心身の発達に与える効果と安全 3年 文化としてのスポーツの意義	入学年次 スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴 その次の年次 運動やスポーツの効果的な学習の仕方 それ以降の年次 豊かなスポーツライフの設計の仕方
小単元	1年 ア 運動やスポーツの必要性和楽しさ等	入学年次 ア スポーツの歴史的発展と変容等

Q3 単元計画とは¹³⁾

単元計画は、単元における学習指導の「基本計画」であると同時に「机上で授業をリハーサルする」という意味を持ちます。また、評価の計画を明確にした単元計画を示すことによって、指導と評価の一体化を図ることにつながります。

単元計画の主たる項目

- 単元の目標
- 単元の目標を実現するための指導内容や活動
- 単元の目標に対する実現状況を把握する評価規準と方法
 - ・内容のまとめりごとの評価規準 ※
 - ・単元の評価規準 ※
 - ・学習活動に即した評価規準
 - ・努力を要する生徒への手立て ※
- 学習の流れ(学習過程)と指導と評価の計画
- 指導の工夫
 - ※ 本ハンドブックフォーマットでは、省略しています。また、運動に関する領域と知識に関する領域では、項目が多少異なります。



Q4 単元の目標とは ^{11) 13)}

単元の目標とは、内容のまとめりごとの目標を実現するため、各年次段階で行う単元ごとに目標を設定したものです。

単元の目標の整理の仕方

○ 運動に関する領域

単元の目標を立てるには2通りの考え方があります。

「評価の観点で整理する場合」

- 関心・意欲・態度
- 思考・判断
- 運動の技能
- 知識・理解

「学習指導要領解説の表記で整理する場合」

- 技能
- 態度
- 知識、思考・判断

※ 本ハンドブックでは、高等学校学習指導要領解説の表記で整理しています。体づくり運動については、「技能」の表記が「運動」にかわります。

○ 知識に関する領域

「評価の観点別に整理します」

- 関心・意欲・態度
- 思考・判断
- 知識・理解

Q5 入学年次・その次の年次以降の単元の目標はどのように立てればよいか

単元目標を立てるには、高等学校学習指導要領及び高等学校学習指導要領解説を基に、指導する年次に応じて目標を設定していきます。また、生徒の実態を把握しておくことも大切です。

※ 本ハンドブックでは、運動に関する領域は、評価の観点（「関心・意欲・態度」「思考・判断」「運動の技能」「知識・理解」）ではなく、高等学校学習指導要領解説の表記（「技能」「態度」「知識、思考・判断」）で整理しています。体づくり運動については、「技能」の表記が「運動」にかわります。

○ 運動に関する領域⁸⁾

「技能」の目標

高等学校 E球技「ネット型」の例

高等学校学習指導要領の内容を「～できるようにする。」と書きかえます。（下線部）

○ その次の年次以降

(1) 次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めてゲームが展開できるようにする。

イ ネット型では、状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作りだすなどの攻防を展開することができるようにする。

入学年次については、高等学校学習指導要領解説（P65ネット型）に示されている内容を「～できるようにする。」と書きかえます。（下線部）

なぜ？ Q6参照

○ 入学年次

(1) 次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めてゲームが展開できるようにする。

イ ネット型では、役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開することができるようにする。

「態度」の目標

高等学校 E 球技の例

その次の年次以降については、高等学校学習指導要領の内容をそのまま転記します。

○ その次の年次以降

(2) 球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする
こと、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること、合意形成に貢献
しようとするなどや、健康・安全を確保することができるようにする。

入学年次については、高等学校学習指導要領解説に示されている（P20「各段階で示した（2）態度の主な表記」）言葉に書きかえます。（下線部）

なぜ？ Q6参照

○ 入学年次

(2) 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする
こと、自己の責任を果たそうとすること、話し合いに貢献しようとすることなどや、
健康・安全を確保することができるようにする。

「知識、思考・判断」の目標

高等学校 E 球技の例

その次の年次以降については、高等学校学習指導要領の内容をそのまま転記します。

○ その次の年次以降

(3) 技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを
理解し、チームや自己の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫でき
るようにする。

入学年次については、「思考・判断」のみ高等学校学習指導要領解説に示されている（P21「各段階で示した（3）知識、思考・判断の主な表記」）言葉に書きかえます。（下線部）

なぜ？ Q6参照

○ 入学年次

(3) 技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを
理解し、（チームや）*自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるように
する。

※チームについての記載は、P21にはありませんが、球技の場合のみ、記載します。

○ 知識に関する領域^{11) 16)}

知識に関する領域では、評価の観点別に単元目標を設定します。（単元名）に次のように文を付け加えて目標とします。「関心・意欲・態度」については（自主的に）その次の年次以降は（主体的に）表記が変わります。

関心・意欲・態度	（単元名）について、課題を解決するための活動などを通して、学習に（自主的・主体的）に取り組もうとすることができるようにする。
思考・判断	（単元名）について、学習した知識を活用したり応用したりすることができるようにする。
知識・理解	（単元名）について、理解することができるようにする。

高等学校 H体育理論の例

その次の年次以降の単元については、具体的な単元名を記載し、次のように語尾を付け加えて記載します。（運動やスポーツの効果的な学習の仕方）の単元の場合。

○ その次の年次以降

(1) 運動やスポーツの効果的な学習の仕方について、課題を解決するための活動などを通して、学習に（主体的）に取り組もうとすることができるようにする。

入学年次の単元については、具体的な単元名を記載し、次のように語尾を付け加えて記載します。

○ 入学年次

(1) スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴について、課題を解決するための活動などを通して、学習に（自主的）に取り組もうとすることができるようにする。

知識に関する領域では「関心・意欲・態度」のみ、入学年次の単元と、その次の年次以降の単元で語尾が変わります。

なぜ？ Q6参照

Q6 単元の目標が入学年次とその次の年次以降で違うのはなぜか¹⁰⁾

学習指導要領及び学習指導要領解説は、指導内容の体系化が図られ、指導内容が明確化されるとともに、2年ごとのまとまりで示されているからです。高等学校学習指導要領は、2年ごとのまとまりで示していないため、高等学校学習指導要領解説の入学年次の解説の部分に書きかえる必要があります。

体系化の要点

- 児童・生徒の発達段階を4年間のまとまりとして捉えました。
- 4年間のまとまりをさらに2年間のまとまりに区切りました。
- ☆・・・中学校第3学年と高校入学年次は、校種をまたいで一つのまとまりになっていますので、配慮が必要です。



今回の改訂では、生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現に向けて、発達の段階のまとまりを考慮し、小学校から高等学校までの12年間を見通した指導内容の体系化が図られました。

校種	小学校		中学校		高等学校			
	1. 2年	3. 4年	5. 6年	1. 2年	3年	入学年次	次の年次	それ以降
発達区分	様々な動きを身に付ける時期		多くの運動を体験する時期		少なくとも一つのスポーツに親しむ時期			
学習のねらい	体を動かす楽しさや喜びを味わう		運動やスポーツの楽しさや喜びを味わう		運動やスポーツの楽しさや喜びを深く味わう			
指導内容	体づくり運動		体づくり運動		体づくり運動			
	器械・器具を使っての運動遊び	器械運動	器械運動	器械運動	器械運動	器械運動	器械運動	器械運動
	走・跳の運動遊び	走・跳の運動	陸上運動	陸上競技	陸上競技	陸上競技	陸上競技	陸上競技
	水遊び	浮く・泳ぐ運動	水泳	水泳	水泳	水泳	水泳	水泳
	表現・リズム遊び	表現運動	表現運動	ダンス	ダンス	ダンス	ダンス	ダンス
	ゲーム	ゲーム	ボール運動	球技 武道	球技 武道	球技 武道	球技 武道	球技 武道
				体育理論		体育理論		

図1 「体育分野の指導内容の体系化」
鹿屋体育大学教授 佐藤 豊 一部改変

態度の体系化

態度の内容は、四つの内容に分けることができます。

- 愛好的態度（価値的態度）
⇒「共通事項」
- 社会的態度
⇒「公正」「協力」
⇒「責任」「参画」
- 健康・安全の態度
⇒「健康・安全」

※ 「態度」の主な表記は、高等学校学習指導要領解説P20「各段階で示した（2）態度の主な表記」に示されています。

校種	小学校			中学校		高等学校			
	1. 2年	3. 4年	5. 6年	1. 2年	3年	入学年次	次の年次	それ以降	
愛好的態度	共通事項 すすんで			積極的	自主的	主体的			
社会的態度	公正 きまりを守る		約束を守る	マナーを守る⇒大切に					
	協力 仲良く運動する		助け合って運動する	援助する⇒教え合う⇒高め合う					
				責任 役割を果たす⇒責任を果たす ⇒引き受ける	参画 話し合いに参加⇒話し合いに貢献 ⇒合意形成				
健康安全の態度	健康・安全 場や用具に気を付ける⇒気を配る⇒健康・安全に気を配る⇒確保する								

図2 「態度の体系化」
鹿屋体育大学教授 佐藤 豊 一部改変

知識、思考・判断の体系化

知識の内容は、各領域に応じて分けています。

- 運動の特性や成り立ち
- 技術（技）の名称や行い方
- 体力の高め方
- 課題解決の方法
- 練習や発表の仕方

※ 「知識、思考・判断」の主な表記は、高等学校学習指導要領解説P21「各段階で示した（3）知識、思考・判断の主な表記」に示されています。

校種	小学校			中学校		高等学校			
	1. 2年	3. 4年	5. 6年	1. 2年	3年	入学年次	次の年次	それ以降	
知識				特性や成り立ち					
				技術の名称や行い方 伝統的な行動の仕方					
				運動観察の方法	課題解決の方法				
思考判断	遊び方の工夫	活動を工夫	課題解決の仕方を工夫	運動の取り組み方を工夫					継続する取り組み方を工夫

図3 「知識、思考・判断の体系化」
鹿屋体育大学教授 佐藤 豊 一部改変

Q7 「知識」の単元の目標が入学年次とその次の年次以降が同じなのはなぜか⁸⁾

高等学校学習指導要領解説では、「知識」以外の部分は入学年次、その次の年次以降に分けて示していますが、「知識」は高等学校全体として書かれているからです。

注意！

高等学校学習指導要領解説では…

「なお、指導に際しては、入学年次には、中学校第1学年及び第2学年で取り上げた『球技の特性や成り立ち』『技術の名称や行い方』『関連して高まる体力』や、第3学年で取り上げた『技術の名称や行い方』『体力の高め方』『運動観察の方法』などについての理解が不十分な場合は、中学校学習指導要領解説で示した指導内容を改めて取り上げるなどの配慮をすることが大切である。」と示されています。生徒の実態をしっかりと把握することが大切です。



Q8 指導内容は何を基に考えたらよいか 8) 13)

高等学校学習指導要領及び高等学校学習指導要領解説を基にします。今回の改訂では、指導内容が明確化され示されています。

○ 指導内容（運動に関する領域）

※ 本ハンドブックでは、運動に関する領域は、評価の観点（「関心・意欲・態度」「思考・判断」「運動の技能」「知識・理解」）ではなく、高等学校学習指導要領解説の表記（「技能」「態度」「知識、思考・判断」）で整理しています。体づくり運動については、「技能」の表記が「運動」にかわります。

「技能」「思考・判断」

高等学校学習指導要領解説の例示を取り上げます（入学年次・その次の年次以降に分けて示されています。）

○ 「技能」

<例示>

入学年次

①サーブでは、ボールをねらった場所に打つこと。 等

○ 「思考・判断」

<例示>

その次の年次以降

⑥球技を生涯にわたって楽しむための自己に適したかわり方を見付けること。 等



「態度」「知識」

高等学校学習指導要領及び高等学校学習指導要領解説の内容を取り上げます。種目などにあわせて表記を変えます。（入学年次については、単元の目標の部分を書きかえていますので、その文言を引用するとよいです。）

○ 「関心・意欲・態度」

入学年次

①バレーボールの学習に自主的に取り組むこと。 等

○ 「知識・理解」

入学年次・その次の年次以降

①バレーボールの技術などの名称や行い方。 等



Q9 教えることが多くて、単元の中で十分指導できないが、どうすればよいか 12)

運動に関する領域の指導内容は、2年間のまとまりで示されているため、2年間の中で指導すればよいのです。また、例示をすべて取り上げなくてもよいとされています。入学年次については、中学校第3学年の指導内容が同じなので、生徒の実態に応じて加減することも可能です。また、球技などは、型を基本として示されているので、同じ型を取り扱う単元があれば、そこへ割り振ることも可能です。

注意！

例示をすべて取り上げなくてもよいとされていますが…

例示は、高等学校学習指導要領の目標を実現するために示されています。生徒の実態や学校の特色などを考えて、加減したり、書きかえたりすることも可能です。ただし、学習指導要領には、法的拘束力がありますので、加減、書きかえには注意が必要です。



3 高等学校学習指導要領解説の読み方 H 体育理論

Q10 体育理論の知識の内容は、どこに示されているか^{8) 11)}

高等学校学習指導要領解説に、より具体的に示されています。示されている言葉によって、単元の中での指導の扱い方が違いますので注意しましょう。

例：「スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴」

高等学校学習指導要領解説の で囲んで示されている部分は高等学校学習指導要領の内容です。

- (1) スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴について理解できるようにする。
- ア スポーツは、人類の歴史とともに始まり、その理念が時代に応じて変容してきていること。また、我が国から世界に普及し、発展しているスポーツがあること。
 - イ スポーツの技術や戦術、(以下省略)

その内容について、小單元ごとに説明しています。

ア スポーツの歴史的発展と変容

スポーツは、世界各地で日常の遊びや労働などの生活から生まれ、次第に発展し今日に至っていること、歴史的な変遷を経て、現代では、競技だけでなく、体操、武道、野外運動、ダンスなど広く身体表現や身体活動を含む概念として、スポーツが用いられるようになってきていることを理解できるようにする。また、近年では、諸外国に普及、発展している日本発祥のスポーツがあることを理解できるようにする。

なお、現代のオリンピック競技種目の多くは、19世紀にイギリスで発祥し発展してきたことについても触れるようにする。

- 「理解できるようにする」・原則として必ず扱う内容(主となる学習内容)です。
- 「触れるようにする」・・・主となる学習内容を扱った上で触れる内容です。
- 「取り上げる程度とする」・他教科や他領域の学習と重複しているため、あまり深く扱いません。
- 「扱うこととする」・・・他の領域で取り上げます。

4 指導と評価について

Q11 学習過程、指導内容と評価の関係とは^{13) 18)}

学習過程、指導内容と評価は、一体として考えていくことが大切です。指導内容が変われば、連動して学習過程、評価も変わります。次のことを確認しながら単元を考えることが大切です。

Point

(運動に関する領域については※印が付いています)

- 学習過程が指導内容に合うようにしましょう。※
- 指導内容が1単位時間の授業の中に集中しないようにしましょう。
- 観察で評価するものは、それを見取れる学習過程を組みましょう。
- 無理なく評価機会を設定しましょう。(観察評価が1単位時間に二つ以上設定されていませんか)。
- 「技能」「態度」については、観察評価の重点日を指導日以降に設定しましょう。※



指導内容
の設定

生徒が身に付けることができるような学習過程、学習活動の設定

○観察評価で評価するもの
見取ることができる学習過程、
学習活動の設定

○ 高等学校 E球技「ネット型」入学年次の例

※ 例であるため、時数、指導内容を減らして表しています。

学習過程	オリエンテーション	準備運動		ストレッチ		本時の内容の確認				
		復習としての活動 ・対人パス		基本練習 パスのドリル練習				課題別練習	班別リーグ戦	
		ためしのゲーム	サービス	ブスロパツイクク	基本練習 (ボールを持たないときの動き)	課題別練習				
場やルールを工夫したゲームⅠ ・ラリーゲーム		場やルールを工夫したゲームⅡ ・バドミントンコートを利用		ゲームⅢ 課題確認をする ・ゲーム記録		班別リーグ戦				
時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
技能			サービス	スパイク	評価の重点日	ブロック	評価の重点日		評価の重点日	
態度	自主的に取り組む			評価の重点日	フェアプレイを大切に	評価の重点日	ポジションに応じたボール操作			評価の重点日
知識				技術などの名称や行い方			話し合いに貢献する	評価の重点日		
思考・判断		審判の方法						課題解決の方法		
						体調に応じた練習方法を選ぶ			課題や練習方法の指摘	作戦や戦術を選ぶ
サービス		…指導内容（キーワード）				色つき		…評価の重点日		

Q12 「技能」と「態度」の評価時間が指導時間とずれているのはなぜか¹²⁾

「技能」が身に付く、「態度」が形成されるのには、時間がかかります。そのため、一定の学習時間を保証した後に評価をします。本ハンドブックでは、運動に関する領域は原則、評価時間をずらして示しています。（知識に関する領域は、原則指導時間に評価します）

4時間目に指導「技能」（スパイク）
○ 指導内容
腕を強く振って、ネットより高い位置から相手側のコートに打ち込むこと。

練習を通して身に付ける。

5時間目に評価
○ 評価規準＜技能⑤＞
腕を強く振って、ネットより高い位置から相手側のコートに打ち込むことができる。

Q13 どのように評価したらよいか 13) 14) 15) 16)

評価の方法には、「観察」「学習ノートの記述」「ペーパーテスト」など様々なものがあります。評価規準にあわせて、生徒の到達度を評価しましょう。

観 点	評価方法	
「関心・意欲・態度」	主に観察評価	等
「思考・判断」	学習ノートの記述 観 察	等
「運動の技能」	主に観察評価	等
「知識・理解」	学習ノートの記述 発言 ペーパーテスト	等

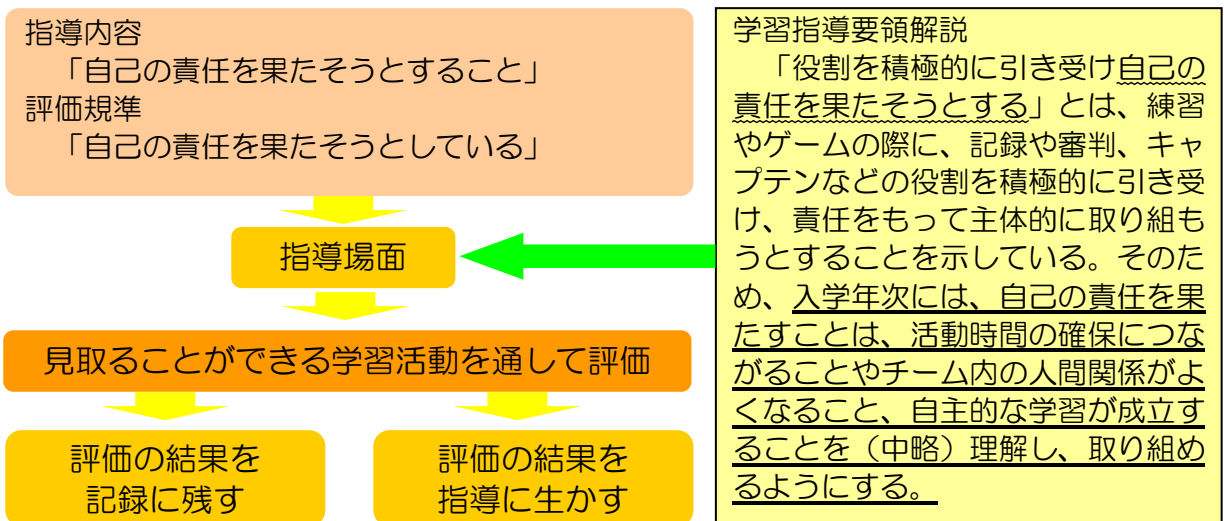
※（中・高等学校：体づくり運動、体育理論は「運動の技能」を除く三つの観点）



Q14 指導と評価の一体化とは 8) 16)

指導内容について、指導場面を設定しないで評価していることはありませんか？指導と評価は、表裏一体です。評価を行う前後で適切な指導場面を設定しましょう。

- 例えば、運動に関する領域「関心・意欲・態度」（入学年次）について…



- 指導と評価の一体化と授業改善

生徒の学習状況を適切に評価し、評価を指導の改善に生かすという視点を一層重視し、効果的な指導が行えるよう、指導過程や評価方法を見直し授業の改善を図りましょう。

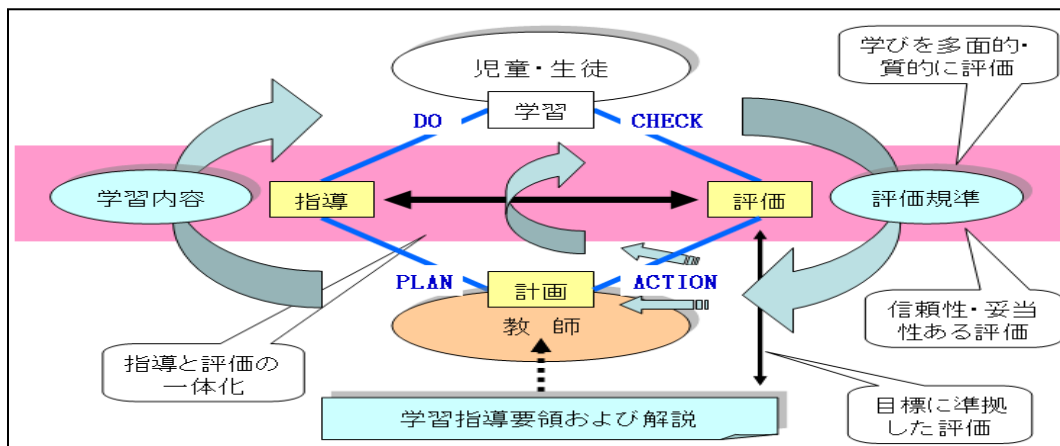


図4 「指導と評価の一体化のイメージ」

5 新しい評価の考え方について

Q15 指導内容と評価規準を記載するときに、表記や順番が違うのはなぜか

学習指導要領改訂に伴い、中学校、高等学校において、体育の運動に関する領域は（１）技能（２）態度（３）知識、思考・判断で示されています。また、保健体育の評価の観点については「関心・意欲・態度」「思考・判断」「運動の技能」「知識・理解」となっています。指導内容については、学習指導要領に準じて記載し、評価に関しては、観点別評価の考え方を生かして記載しているからです。

○ 学習評価に関する基本的な考え方^{10) 11) 13)}

学習評価の基本的な考え方

- 目標に準拠した評価による観点別学習状況の評価や評定の着実な実施
- 学力の重要な要素を示した新しい学習指導要領等の趣旨の反映
- 学校や設置者の創意工夫を生かす現場主義を重視した学習評価の推進

新しい学習指導要領の下での学習評価については、生徒の「生きる力」の育成を目指し、学習指導要領に示す目標に照らして、生徒一人ひとりの進歩の状況や教科の目標の実現状況を的確に把握し、学習指導の改善に生かすことが重要であるとともに、学習指導要領に示す内容が確実に身に付いたかどうかの評価を行うことが重要です。

また、今回の観点別学習状況の評価の改善は、特に、学力の重要な要素を示した新しい学習指導要領等の趣旨の反映と関連しています。（図5）

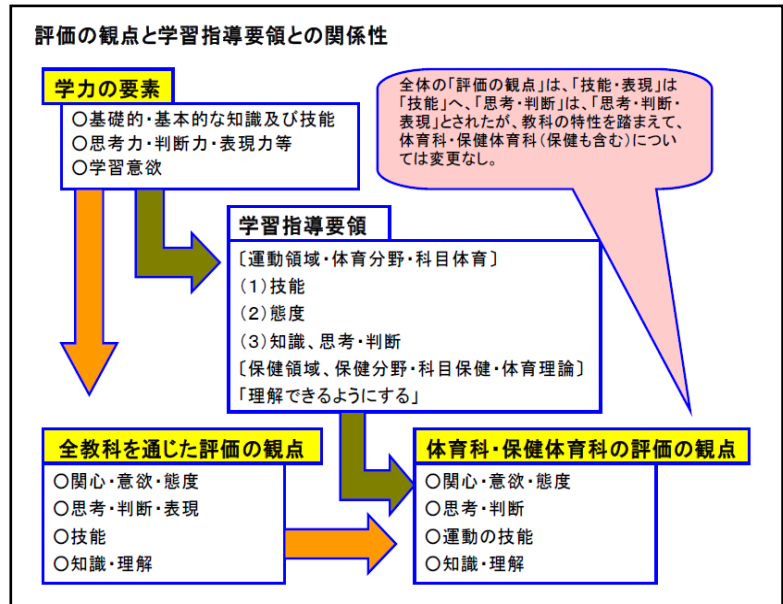


図5 「評価の観点と学習指導要領との関係性」
鹿屋体育大学教授 佐藤 豊 一部改変

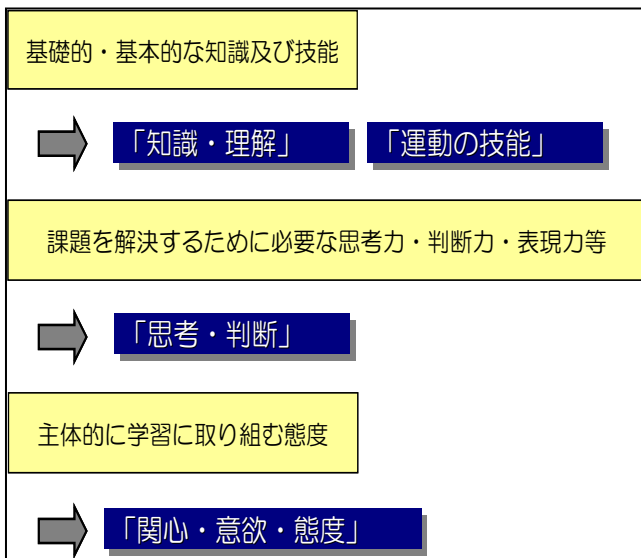


図6 「学力の要素と保健体育の観点との関係性」
鹿屋体育大学教授 佐藤 豊 一部改変

新しい学習指導要領は（１）技能（２）態度（３）知識、思考・判断で整理されているため、体育の指導内容を学習指導と評価の計画に反映させるときは、学習指導要領に準じて整理しています。学力の要素と保健体育の評価の観点の関係は、（図6）のようになります。課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等は、「思考・判断」で評価します。この場合の表現とは、思考・判断したことを発表したり、説明したりする活動などを評価します。ダンスにおける「動きに変化を付けて即興的に表現したり」等の部分については、従来どおり「運動の技能」で評価します。

6 評価規準について

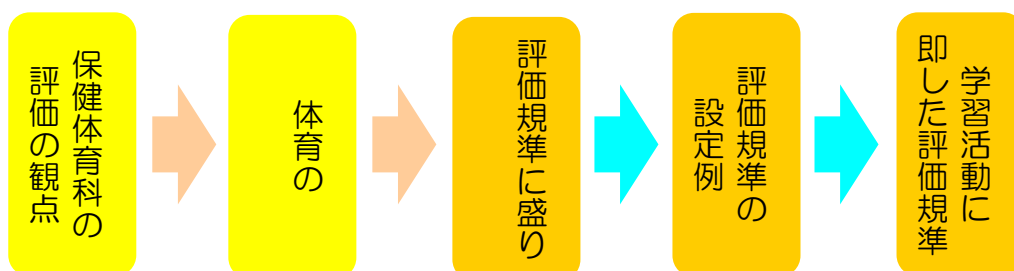
Q16 評価規準とは^{13) 14) 15) 16)}

目標に準拠した評価を着実に実施するためには、各教科・科目の目標だけでなく、領域や内容項目における学習指導のねらいが明確になっていること、学習指導のねらいが生徒の学習状況として実現されたとはどのような状態になっているかが具体的に想定されていることが必要です。このような状況を具体的に示したものが評価規準であり、四つの観点「関心・意欲・態度」「思考・判断」「運動の技能」「知識・理解」で設定します。

関心・意欲・態度	学習内容に関心を持ち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を生徒が身に付けているかどうかを評価します。
思考・判断	知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を生徒が身に付けているかどうかを評価します。
運動の技能	習得すべき技能を生徒が身に付けているかどうかを評価します。
知識・理解	習得すべき知識や重要な概念等を生徒が理解しているかどうかを評価します。

※（中・高等学校：体づくり運動、体育理論は「運動の技能」を除く三つの観点）

○ 評価規準の階層



○ 評価規準に盛り込むべき事項とは¹⁶⁾

学習指導要領の各教科の目標、学年（又は各分野、科目）の目標及び内容の記述を基に、「改善通知」で示されている各教科の評価の観点及びその趣旨を踏まえて、学年（又は各分野、科目）別の評価の観点の趣旨を作成し、これらを基に内容のまとめごと

表3 【「E球技」の評価規準に盛り込むべき事項】【入学年次】

関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
・球技の楽しさや喜びを味わうことができるよう、フェアなプレイを大切にしようとする、自己の責任を果たそうとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとするなどや、健康・安全を確保して、学習に自主的に取り組もうとしている。	・生涯にわたって球技を豊かに実践するための自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。	・球技の特性に応じて、ゲームを展開するための作戦に応じた技能や仲間と連携した動きを身に付けている。	・技術の名称や行い方、体力の高め方、 <u>運動観察の方法</u> 、 <u>試合の行い方</u> を理解している。※

※国立教育政策研究所が示している評価規準は、知識・理解の入学年次の内容については、中学校学習指導要領第3学年を基に作成されています。

○ 評価規準の設定例とは¹⁶⁾

「評価規準に盛り込むべき事項」をより具体化したものであり、原則として、学習指導要領の各教科の目標、学年（又は分野、科目）の目標及び内容のほかに、当該部分の学習指導要領解説(文部科学省刊行)の記述を基に作成したものです。

表4 【「E球技」の評価規準の設定例】【入学年次】

関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・球技の学習に自主的に取り組もうとしている。 ・フェアなプレイを大切にしようとしている。 ・自己の責任を果たそうとしている。 ・作戦などについての話し合いに貢献しようとしている。 ・互いに助け合い教え合おうとしている。 ・健康・安全を確保している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・提供された作戦や戦術から自己のチームや相手チームの特徴を踏まえた作戦や戦術を選んでいる。 ・仲間に対して、技術的な課題や有効な練習方法の選択について指摘している。 ・作戦などの話し合いの場面で、合意を形成するための適切な関わり方を見付けている。 ・健康や安全を確保するために、体調に応じて適切な練習方法を選んでいる。 ・球技を継続して楽しむための自己に適した関わり方を見付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴール型では、ゴール前への侵入などから攻防を展開するための安定したボール操作と空間を作りだすなどの動きができる。 ・ネット型では、空いた場所をめぐる攻防を展開するための役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きができる。 ・ベースボール型では、攻防を展開するための安定したバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と連携した守備などの動きができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・技術の名称や行い方について、学習した具体例を挙げている。 ・球技に関連した体力の高め方について、学習した具体例を挙げている。 ・運動観察の方法について、理解したことを言ったり書き出したりしている。※ ・試合の行い方について、学習した具体例を挙げている。※

※国立教育政策研究所が示している評価規準は、知識・理解の入学年次の内容については、中学校学習指導要領第3学年を基に作成されています。

○ 学習活動に即した評価規準とは^{8) 16)}

評価規準の設定例から、単元で指導する内容に合わせてより具体的に作成します。運動に関する領域の「関心・意欲・態度」「思考・判断」「知識・理解」については、指導する内容に合わせて記入します。「運動の技能」については、例示に合わせて書きかえます。（下記参照）知識に関する領域の「関心・意欲・態度」「思考・判断」については、単元名と実際の学習活動の姿を記載し、語尾を付け加えます。「知識・理解」については、学習指導要領解説の説明文「～理解できるようにする。」と記載されている部分の言葉を記載します。（Q10体育理論の知識の内容はどこに示されているかP17参照）

評価規準の設定例（高等学校 E球技「ネット型」入学年次）

- ・ネット型では、空いた場所をめぐる攻防を展開するための役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きができる。



学習活動に即した評価規準

- ①サーブではボールをねらった場所に打つことができる。
- ②ボールを相手側のコートに空いた場所やねらった場所に打ち返すことができる。
- ③攻撃につなげるための次のプレイをしやすい高さや位置にボールを上げることができる。
- ④ネット付近でボールの侵入を防いだり、打ち返したりすることができる。
- ⑤腕を強く振って、ネットより高い位置から相手側のコートに打ち込むことができる。
- ⑥ポジションの役割に応じて、拾ったりつないだり打ち返したりすることができる。
- ⑦ラリーの中で、味方の動きに合わせてコート上の空いている場所をカバーすることができる。
- ⑧連携プレイのための基本的なフォーメーションに応じた位置に動くことができる。

Q17 単元の評価規準を設定するには¹⁶⁾

単元の評価規準を設定するには、領域に対しての「評価規準に盛り込むべき事項」「評価規準の設定例」を基にして、より具体的な「学習活動に即した評価規準」を設定します。しかし、自分で評価規準を考えていくのはとても大変です。国立教育政策研究所が発刊している「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」を基に作成するとよいでしょう。

※ 国立教育政策研究所（指導資料・事例集）<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryou.html>

Point



- 指導する内容と評価する内容が一致するようにしましょう。
- 運動に関する領域において指導内容を精選している場合は、指導しない内容の評価規準を除きます。
- 運動に関する領域において2年間にわたって単元を考える場合は、どの年次で評価するのが、分かるように記載しましょう。
- 運動に関する領域の「運動の技能」については、「評価規準の設定例」をより具体的にするために学習指導要領解説の〈例示〉を「学習活動に即した評価規準」の参考とします。

○ 運動に関する領域¹⁸⁾

本ハンドブックの運動に関する領域のフォーマットでは、指導内容の語尾をかえて評価規準としています。機械的な作業になりますので、記入をしません。

関心・意欲・態度	～しようとしている。（健康・安全については、～している。）
思考・判断	～している。
運動の技能	～ができる。
知識・理解	～について、学習した具体例を挙げている。 ～について、言ったり書き出したりしている。

○ 知識に関する領域¹⁶⁾

知識に関する領域では、評価規準の設定例を実際に行う単元名や生徒の実際の学習活動の姿に言葉をかえて設定します。「知識・理解」については、学習指導要領解説の説明文からより具体的に設定します。（Q10体育理論の知識の内容はどこに示されているかP17参照）

関心・意欲 ・態度	入学年次	（単元名）について、（実際の学習活動の姿）するなどの活動を通して、学習に自主的に取り組もうとしている。
	その次の年次以降	（単元名）について、（実際の学習活動の姿）するなどの活動を通して、学習に主体的に取り組もうとしている。
思考・判断	入学年次	（単元名）について、（実際の学習活動の姿）してまとめた考えを説明している。
	その次の年次以降	（単元名）について、（実際の学習活動の姿）して判断し、説明している。
知識・理解	入学年次	（高等学校学習指導要領解説の説明文）について、言ったり書き出したりしている。
	その次の年次以降	（高等学校学習指導要領解説の説明文）について、理解したことを言ったり書き出したりしている。

Q18 評価から評定にはどのように結び付ければよいか 14) 15) 16)

評価、評定を行う際には、学校や設置者の創意工夫を一層生かしていくことが求められています。観点別学習状況の評価の観点ごとの総括の他、評定への総括は、学期末や学年末などに行うことが考えられます。具体的な総括の流れとしては、以下のように、いくつか考えられます。

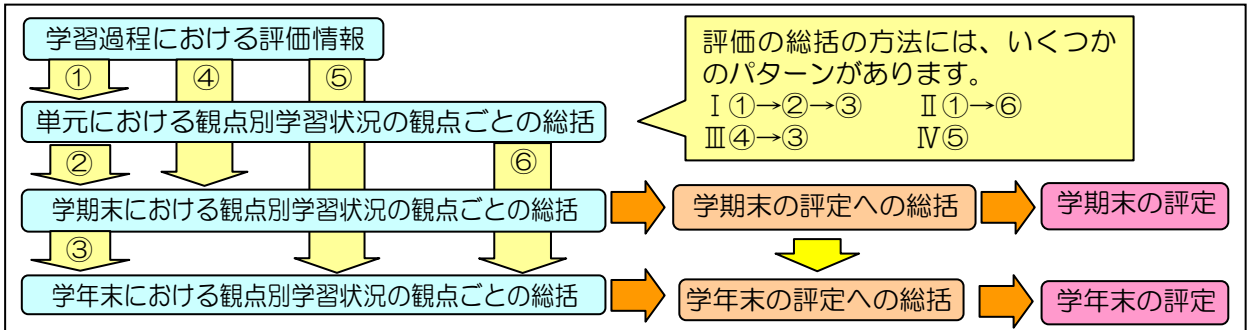


図7 「評価・評定の流れ」

○ 総括の具体的な方法には、次の二つを考えることができます。

1 評価結果をA、B、Cなどで表し、その組合せなどで判断する考え方

A、B、Cなどの組合せでの総括結果をあらかじめ設定しておきます。例えば「ABBB」ならばBと総括します。なお、「AABB」の総括結果をAとするかBとするかなど、同数の場合や三つの記号が混在する場合の総括の仕方をあらかじめ決めておく必要があります。

2 A=3点、B=2点、C=1点などのように記号で表した評価結果を数値化し、これを合計したり、平均したりするなどして判断する考え方

上記の点数の平均値に対応した判断の基準をあらかじめ設定しておきます。例えば、「総括の結果をBとする判断の基準を $1.5 \leq \text{平均値} \leq 2.5$ 」とすると、「ABB」の平均値は、約2.3 $[(3+2+2) \div 3]$ で総括結果はBとなります。

○ ①→②→③のパターン例

①の算出方法例

		時間							単元の総括
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	
生徒1	関心・意欲・態度		A		A		A		A
	思考・判断				A	A	A		A
	運動の技能			B		B		A	B
	知識・理解	A		B	A				A

学習過程における評価 A (B、C) が□□個以上ある場合は、単元の総括がA (B、C) になるなど、あらかじめ決めておきます。

②、③の算出方法例

②…学期末の例

	関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
単元1	A	B	A	B
単元2	B	B	A	B
単元3	A	B	A	C
⋮				
総括	A	B	A	B

評定4

③…学年末の例

	関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
1学期	A	B	A	B
2学期	B	B	A	B
3学期	A	B	A	C
総括	A	B	A	B

評定4

<評定算出の注意>

高等学校
科目「体育」 → 評定
小・中学校
保健分野 (保健領域)
+
体育分野 (運動領域) } → 評定

7 学習指導の工夫について

Q19 学習指導の工夫にはどのようなものがあるか^{13) 19)}

学習指導の工夫には、「学習過程の工夫」「学習の場やルールなど条件の工夫」「学習資料の工夫」「学習形態の工夫」などがあります。授業前にあらかじめ準備が必要です。

○ 学習過程の工夫

単元の前半では、診断的段階として、生徒がどのぐらいの力を身に付けているかを確認したり、復習としての内容を扱ったりします。次に、形成的段階として、単元の目標を達成できるように教材・教具を活用して学習内容を習得したり、習得した「技能」や「知識」を活用し、「思考・判断」を深めたりします。単元の終盤は総括的段階であり、発展的内容を扱うなど、学習過程を工夫していくことが大切です。

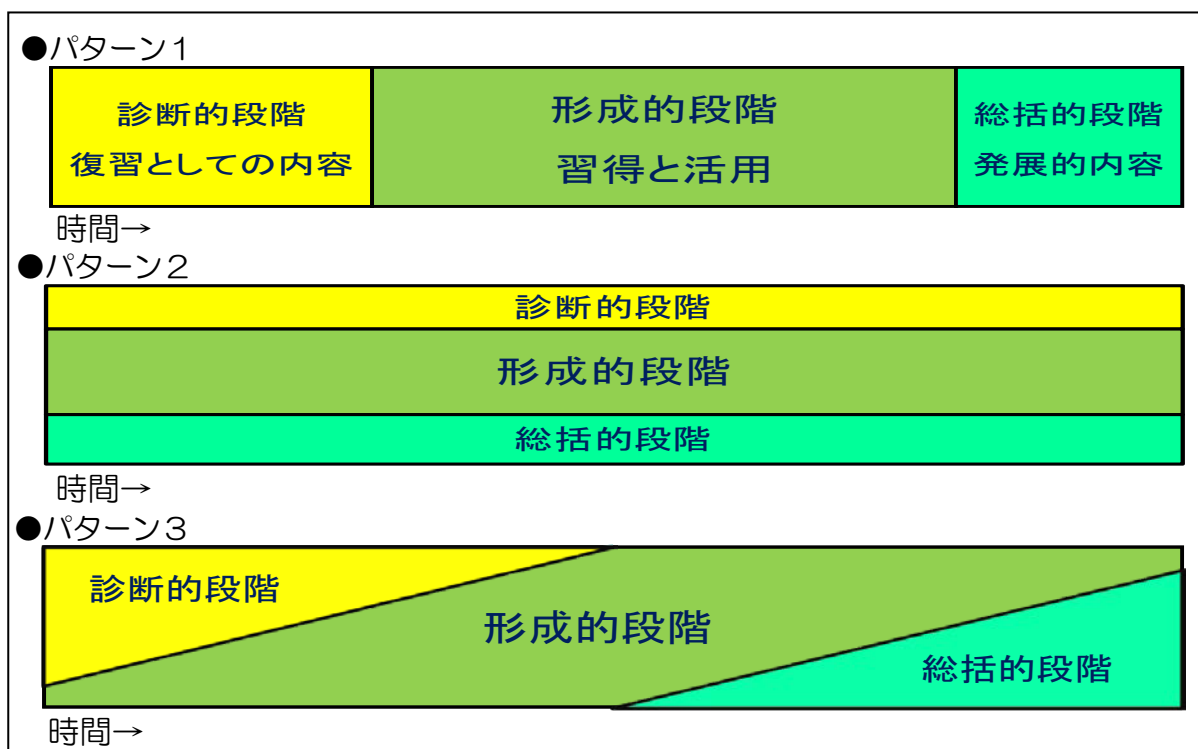


図8 「学習過程について」鹿屋体育大学教授 佐藤 豊 一部改変

○ 学習の場やルールなど条件の工夫

学習意欲を高め、活動を活発にしたり、個人の実情に合わせて効果的に知識や技能の定着を図ったりするためには、場やルールに工夫を加えて、効果的な授業づくりをしていくことが大切です。

工夫例

- 課題が明らかになる条件（ルール）の設定
- 音楽を使いリラックスした雰囲気づくり
- 種目に取り組みやすくするための用具の導入

○ 学習資料の工夫

学習資料には、個人・グループで利用するもの、ノート・カード形式などが考えられます。資料は生徒の思考・判断を促すとともに、教師もその記入状況を評価し、その結果を指導・支援に生かすことができます。

工夫例

- 単元の目標や活動の流れなどがわかるようにする。
- 課題を発見したり、チーム（個人）の変容に気付いたり、解決方法はどうか等を振り返ったりしながら学習が進められるようにする。
- 試合の状況を分析したり、振り返ったりできるものにする。
- 現在の技能の段階がわかるような工夫をする。

○ 学習形態の工夫¹⁷⁾

知識に関する領域（体育理論）の学習については、基本的に座学によって行います。高等学校については、各年次6単位時間以上、中学校については、各学年で3単位時間以上を配当することになっています。これは、知識の重要性を一層実感するとともに、その確実な定着を図るためです。そのためにも、指導法の工夫により確実に習得させることが求められています。例えば、事例などを用いたディスカッションや課題学習などを各学校の実態に応じて取り入れることが大切です。

表5 指導方法の工夫例

	方法	期待される効果	効果が出にくい場合	実施の際の注意点	活用の例
ブレインストーミング	○グループ内であるテーマについて様々なアイデアを出すための活動	○グループ内での活発な意見交換へのきっかけになり、課題発見・課題解決能力、思考力、表現力の育成に役立つ。	○メンバーの数や構成、テーマの設定によって、意見やアイデアが出ずに活動が停滞する。	○メンバーは5～8名程度とする。 ○批判的なコメントはしない。 ○質を問わずに多くのアイデアを出す。	○ライフステージに応じたスポーツとのかかわり方。 ○スポーツ振興のための条件整備
ディスカッション	○テーマについて自由に意見を述べる活動	○様々な観点から考えることができ、思考力の向上が図られる。	○意見を述べない、述べることができない生徒が出る。	○生徒それぞれが、自分の意見を持ち、述べるような支援が必要である。	○オリンピックの意義 ○ドーピングについて

8 時案について

Q20 時案とは ¹³⁾

単元計画を基に、その中の1単位時間をより詳しく示したものです。1単位時間の授業の流れ、指導内容、評価などを単元計画よりもより具体的に示しています。

時案の主たる項目

- 本時のねらい（目標）
- 本時の評価
- 展開（はじめ・なか・まとめ）
 - ・学習内容 ・学習活動 ・発問 ・教師の指導 ・手立てと評価

Q21 本時のねらい（目標）とは ¹³⁾

単元の指導内容を、運動に関する領域は「7 学習過程・指導と評価の計画」、知識に関する領域は「8 指導と評価の計画」、に当てはめたものから本時の指導内容を確認し、その内容を「～できるようにする。」と書きかえます。評価を後日見取る場合はその時間を記載します。

Point

- 運動に関する領域の「7 学習過程・指導内容と評価の計画」では、指導の重点日に指導内容を位置付けています。そのため、指導内容が設定されていない時間があるかもしれません。そのような場合は、重点日ではないが、本時の中心的な指導内容を想定してねらいに当てはめるようにしましょう。

Q22 本時の評価とは ¹²⁾

- 運動に関する領域
単元の評価内容を「7 学習過程・指導と評価の計画」に当てはめたものから、本時の評価内容を確認し、「8 単元の評価規準と評価方法」によって語尾を変えた表現で「評価規準」を記載します。また、評価をどのように見取るかを記載します。「関心・意欲・態度」「運動の技能」については、原則、評価時間を指導時間より後に設定しているので、いつ指導したかが分かるようにします。
- 知識に関する領域
単元の評価内容を「8 指導・評価の計画」に当てはめたものから、本時の評価内容を確認し、「評価規準」をそのまま記載します。また、評価をどのように見取るかを記載します。

Q23 学習内容とは 8) 11) 16) 20)

教師の指導内容が生徒に身に付くことで単元や授業のねらいは達成されますが、そのときに生徒に身に付いたことが学習内容となります。指導内容をすべての生徒に確実に身に付けさせるためには、教師はそれがどのようなものを明確に理解していることが必要であり、生徒は能力・適性に応じ具体的にそれを学ぶことが大切となります。学習内容の記載にあたっては、指導内容をより具体化しましょう。学習指導と評価の計画を作成するにあたっては、高等学校学習指導要領や高等学校学習指導要領解説が参考となります。

本ハンドブックでは、運動に関する領域について次のような整理をして記載しています。

指導項目	指導内容	学習内容
技能	高等学校学習指導要領解説の例示	例示をより具体化したもの
態度	高等学校学習指導要領の記載内容	高等学校学習指導要領解説の解説内容
知識	高等学校学習指導要領の記載内容	高等学校学習指導要領解説の解説内容
思考・判断	高等学校学習指導要領解説の例示	高等学校学習指導要領解説の例示*

※思考・判断の学習内容については、例示をより具体化したものとしてもよいです。

○ 知識に関する領域

「知識」

例：小単元「オリンピックムーブメントとドーピング」を2時間に分けて行なう場合
・学習指導要領解説の説明文を分割または、同じ内容を2回記載するなど

学習内容（1時間目）

現代のスポーツは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしており、その代表的なものにオリンピックムーブメントがあること、オリンピックムーブメントは、オリンピック競技大会を通じて、人々の友好を深め世界の平和に貢献しようとするものであること。

学習内容（2時間目）

競技会での勝利によって賞金などの報酬が得られるようになるとドーピング（禁止薬物使用等）が起こるようになったこと、ドーピングは不当に勝利を得ようとするフェアプレイの精神に反する不正な行為であり、能力の限界に挑戦するスポーツの文化的価値を失わせる行為であること。

○ 運動に関する領域

「技能」

指導内容<例示>

⑤腕を強く振って、ネットより高い位置から相手側のコートに打ち込むこと。

学習内容

腕を強く振って、ネットより高い位置から相手側のコートに打ち込むには、両腕の振り上げから、リードした腕を脇を締めるように強く引きつけ、ボールの上部をたたくように打ち込むこと。

当体育センターでは、平成21年に「体育学習における技能の系統に関する研究」一運動の技能の基となる知識を手がかりとして一の中で、「学習（指導）内容の整理表」を作成していますので、これを参考にするとよいです。

※ 神奈川県立体育センターホームページ「体育学習における技能の系統に関する研究」
<http://www.pref.kanagawa.jp/uploaded/attachment/2404.pdf>

「態度」

指導内容

- ②フェアなプレイを大切にしようとする事。

学習内容(入学年次)

ルールやマナーを大切にすることは、友情を深めたり連帯感を高めたりするなど、生涯にわたって運動を継続するための重要な要素となること。

Point

- 高等学校学習指導要領解説の中で、 で囲まれている部分は、高等学校学習指導要領の内容です。また、解説文の中で「」でくくられている部分が、高等学校学習指導要領の内容であり、それに続いてその解説が示されています。

「フェアなプレイを大切にしようとする」とは、主体的な学習の段階では、決められたルールや自分たちで決めたルール、マナーを単に守るだけではなく、練習やゲームで相手の素晴らしいプレイを認めたり、相手を尊重したりするなどの行動を通して、フェアなプレイを大切にしようすることを示している。そのため、入学年次には、ルールやマナーを大切にすることは、友情を深めたり連帯感を高めたりするなど、生涯にわたって運動を継続するための重要な要素となることを、その次の年次以降には、ルールやマナーを大切にすることは、スポーツの価値を高めるとともに、自己形成に役立つことを理解し、取り組めるようにする。

- 解説文の_____の部分が、その態度を形成するための「基となる知識」として示されています。これを生徒にしっかりと理解させた上で、取り組めるようにすることが大切です。この部分が、学習内容になります。「共通事項」の基となる知識は、高等学校学習指導要領解説のP18～19にその記載があります。

「知識、思考・判断」

指導内容

- ①バレーボールの競技会の仕方。

学習内容(高等学校全体)

ゲームのルール、トーナメントやリーグ戦などの試合方式、運営の仕方や役割に応じた行動の仕方などを理解できるようにすること。

Point

- 高等学校学習指導要領は、「知識、思考・判断」を統合して示していますが、前段の「技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解し」までが「知識」の内容、それ以降が「思考・判断」の内容となっています。
- 高等学校学習指導要領解説の中で、 で囲まれている部分は、高等学校学習指導要領の内容です。また、解説文の中で「」でくくられている部分が、高等学校学習指導要領の内容であり、それに続いてその解説が示されています。

「競技会の仕方」では、ゲームのルール、トーナメントやリーグ戦などの試合方式、運営の仕方や役割に応じた行動の仕方などを理解できるようにする。

- 解説文の_____の部分が、学習内容になります。
- 思考・判断の指導内容は、技能と同様に例示が示されていますので、例示を取り上げて指導しましょう。例示がそのまま学習内容になります。中学校第3学年及び高等学校入学年次は、「これまで学習した知識や技能を活用して、(チームや)自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫することができるようにする。」その次の年次以降においては、「卒業後に豊かなスポーツライフを継続できるようにするための視点を重視して、課題の設定の仕方、自己や仲間、チームの課題に応じた練習計画の立て方や作戦の立て方などの運動を継続するための取り組み方を工夫することができるようにする。」と示されています。指導する際には、習得した知識や技能を基に思考・判断できるようにしましょう。

Q24 学習活動とは 8) 13)

学習活動とは、本時の学習内容を生徒が身に付けるための活動(学習内容に即した活動)と、評価を見取ることができる活動(本時の評価に即した活動)に分けることができます。活動ですから、何をするのが、第三者にも伝わるように記入することに心がけましょう。

○ 運動に関する領域

指導内容<例示>

⑦ラリーの中で、味方の動きに合わせてコート上の空いている場所をカバーすること。

学習内容

ラリーの中で、味方の動きに合わせてコート上の空いている場所をカバーするには、相手と味方の動きをよく見て、味方と連携して声をかけながら動くこと。

学習活動

○ 3対3のラリーゲーム
・バドミントンコートを利用する。
・互いに声をかけ、できるだけラリーを続ける。

○ 知識に関する領域

学習内容

競技会での勝利によって賞金などの報酬が得られるようになるとドーピング(禁止薬物使用等)が起こるようになったこと、ドーピングは不当に勝利を得ようとするフェアプレイの精神に反する不正な行為であり、能力の限界に挑戦するスポーツの文化的価値を失わせる行為であること。

学習活動

○ グループディスカッション

テーマ

「記録を出すために薬物を使用することについて」

Q25 発問とは 13) 17)

思考力・判断力を高めるためには、授業の中で思考を促し、判断させる場面を設定する必要があります。思考を促す手立てとして、教師の発問は重要です。具体的には、教師の言葉で発問したり、学習カード等に発問を示し、答えや考えを書かせたりすることが考えられます。また、発問した後に間をとること(思考を促す)も大切になります。

○ 運動に関する領域の発問の例

器械運動 マット

・開脚前転を滑らかに行うためには、どのようにしたらよいですか。

陸上競技 短距離走

・スタートダッシュで徐々に上体を起こして加速するためには、スタート直後の姿勢をどのようにしたらよいですか。

○ 知識に関する領域の学習の流れを意識した発問

意識を喚起

・これまでに学習した内容を確認する発問
・学習活動に導く発問

思考を促す

・思考を広げたり、深めたりする発問
・判断を促す発問
・比較したり、違いを明確にしたりする発問
・自分の考えやイメージを出させる発問
・視点を転換させたり、ヒントを与えたりする発問

知識を定着

・自分を振り返らせる発問
・次の学習への意欲を喚起する発問

Q26 つまずいている生徒への手立てとは ¹³⁾ ¹⁸⁾

つまずいている生徒（Cと判断される生徒）を「おおむね満足できる状況」（B）まで引き上げるための手立てを、生徒の実態や教材の特性を考え、あらかじめ想定しておきます。手立てとしては、まず何につまずいているのか、原因は何なのかを把握し、具体的な例示や示範、思考を促す発問、授業の雰囲気づくり、教材・教具の工夫等を行うとともに、個別支援や集団への働きかけ等を行います。

○ 手立ての例（B器械運動「マット運動」）

○ 生徒の現状

- ・開脚前転を滑らかに回転できない。
- ・開脚前転で、起き上がることができない。



○ 何につまずいているのか、原因の把握

- ・回転にスピードがない。
- ・開脚するタイミングが早い。



「想定される手立て」

- 教師による示範
- 発問、指示
 - ・回転のスピードを上げるにはどうしたらよいだろう。
 - ・回転の終わりに、足を開こう。 等
- 教具の工夫
 - ・傾斜のついたマットを使う。
 - ・補助のマットを使って段差をつける。 等
- 個別支援
 - ・補助をする。 等

Q27 学習内容から学習活動はどのように設定したらよいか（運動に関する領域）

学習活動を設定するためには、まず、指導内容を確認し、生徒の具体的な学習内容を設定します。学習内容を生徒が身に付けるときにどんなことにつまずくかを考え、指導の工夫（教材・教具の準備）をします。それを基に、生徒がより効率的に学習内容を身に付けることができる学習活動を設定します。

○ 技能（高等学校 E球技「ベースボール型」入学年次の例）

生徒に技能を確実に身に付けさせるためには、①生徒の実態（能力の発達段階や興味・関心など）を把握した上で、②学習内容を確認し、③技能のポイント（必要な知識）を指導者が理解することが必要です。また、前述した①②③を踏まえ、④具体の学習内容を特定し、⑤その学習内容を身に付ける教材・教具を準備して、⑥学習活動を設定することになります。

1 生徒の実態の把握

- 生徒の実態を把握し、技能を身に付ける際、つまずくと思われる理由を考えます。
 - ・筋力がなく、バットが重くて体の軸を安定させてバットを振りぬくことができない。
 - ・ソフトボールをやった経験のある生徒は少なく、興味を持っている生徒も少ない。

2 学習内容の確認

- 本時のねらいの「技能」の学習内容が、高等学校学習指導要領を踏まえているかを確認します。高等学校学習指導要領解説には、指導内容の例示が示されており、参考にします。
 - ・身体の軸を安定させてバットを振りぬくこと。（高等学校学習指導要領解説の例示）

3 技能のポイントの理解

- 技能（例示等）を身に付ける際のポイント（必要な知識）を理解します。
 - ・身体の軸を安定させてバットを振りぬくには、軸足に体重を載せ、上半身がやや後方に捻じられるようにテイクバックし、前足に体重移動しながらボールに対しバットを振り出すこと。

4 具体の学習内容の明確化

- 具体の学習内容を明確にします。
 - ・Tスタンドと軽いバット、スポンジボールを使って、身体の軸を安定させてバットを振りぬくこと。

5 教材・教具の準備

- 生徒のつまずきを解消できる教材や教具を準備します。（場やルール、用具等の工夫）
 - ・軽いバット（プラスチックバットなど）、Tスタンド、スポンジボール、ゲーム的な要素を含んだ教材、スイングチェックシート（スイングのポイントを相互評価できるようなシート）

6 学習活動の設定

- 準備した教材や教具の活用によって、具体の学習内容が効率的に身に付くような学習活動を設定します。
 - ・教え合い活動でのスイングチェック（スイングチェックシートで採点）
 - ・スイングコンテスト（スイングチェックシートの採点を基に）

○ 態度（高等学校 E 球技入学年次の例）

（2）球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとすること、自己の責任を果たそうとすること、話合いに貢献しようとするなどや、健康・安全を確保することができるようにする。

1 生徒の実態の把握

- 生徒の実態を把握し、態度を身に付ける際、つまずくと思われる理由を考えます。
 - ・勝敗を競う楽しさや喜びの意味を理解していない。
 - ・ルールやマナーを守れない生徒も若干名いる。

2 学習内容の確認

- 本時のねらいの「態度」の学習内容が、高等学校学習指導要領を踏まえているかを確認します。高等学校学習指導要領解説には、態度の指導内容について、その基となる知識を説明していますので参考にします。
 - ・「フェアなプレイを大切にしようとすること」とは、（中略）入学年次には、ルールやマナーを大切にすることは、友情を深めたり連帯感を高めたりするなど、生涯にわたって運動を継続するための重要な要素となることを（中略）理解し、取り組めるようにする。

3 教材・教具の準備

- 場やルール、用具等を工夫することで、生徒がつまずく点を解消し、具体の学習内容が経験できるよう教材や教具を準備します。
 - ・グループ編成の工夫（個々が生きる役割分担）、肯定的な雰囲気づくり（学習カードなどに、話合いや試合のルール、約束事項の提示）、ルールを工夫したゲーム

約束行動（例）	話合いや試合のルール（例）
<ul style="list-style-type: none">・失敗を責めたり、笑ったりしない。・アドバイスしてもらったら「ありがとう」と応える。・活動を終えた仲間とタッチする。等	<ul style="list-style-type: none">・話合いでは、相手の話をしっかりと聞く、人の意見は否定しない。・チームで円陣を組んで、かけ声をかける。・始まりと終わりの挨拶では相手選手と握手する。・よいプレイのときは、ハイタッチする。等

4 学習活動の設定

- 基となる知識を指導することができる学習活動の設定をします。（指導機会）
- 準備した教材や教具の活用によって、具体の学習内容が効率的に身に付くような学習活動を設定します。
 - ・みんなが楽しめるルールやマナーについてお互いに話し合う場面の設定
 - ・みんなが楽しめるルールやマナー（約束行動）を実践する場面の設定
 - ・学習カードへの記入（本時のねらいに対する振り返り）

○ 知識、思考・判断（高等学校 E球技入学年次の例）

（3）技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解し、チームや自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。

1 生徒の実態の把握

- 生徒の実態を把握し、「知識、思考・判断」を身に付ける際、つまずくと思われる理由を考えます。
- ・課題が分からない。課題の解決方法が分からない。

2 学習内容の確認

- 本時のねらいの「知識、思考・判断」の学習内容が、高等学校学習指導要領を踏まえているかを確認します。高等学校学習指導要領解説には、「知識」の指導内容についてその具体を説明しています。「思考・判断」については例示を参考にします。

（知識）

- ・「課題解決の方法」では、自己に応じた目標の設定、目標を達成するための課題の設定、課題解決のための練習法などの選択と実践、ゲームなどを通じた学習成果の確認、新たな目標の設定といった過程があることを理解できるようにする。

（思考・判断）＜例示＞

- ・提供された作戦や戦術から自己のチームや相手チームの特徴を踏まえた作戦や戦術を選ぶこと。

3 教材・教具の準備

- 場やルール、用具等を工夫することで、生徒がつまずく点を解消し、具体の学習内容が経験できるよう教材や教具を準備します。
- ・課題を見付けるための工夫
学習内容に関連した基となる知識の提示、視覚資料（図説）、ビデオ等の活用、学習カードの工夫、教師による言葉がけ
 - ・課題を解決するための工夫
知識（参考資料等の提示）、課題の解決方法の選択

4 学習活動の設定

- 準備した教材や教具の活用によって、具体の学習内容が効率的に身に付くような学習活動を設定します。
- ・課題を立てる場面の設定（学習カードなどを工夫し、本時の課題が立てられるようにする）
 - ・課題の解決方法を選択する場面の設定
 - ・課題を解決する場面の設定
 - ・学習カードへの記入（本時のねらいに対する振り返り、知識を定着するためのテスト）

9 学習指導と評価の計画（知識に関する領域）フォーマットと記載例

ここでは、当体育センターが作成したフォーマット（知識に関する領域）に沿って、作成方法や基本的な考え方を示していきます。Q&Aの形で示していますので、用語の説明や書き方の詳細は、右のQを参考に、該当するページを参照してください。

フォーマットと解説

保健体育科（体育 知識に関する領域）

学習指導と評価の計画

【単元計画】

1 単元名

単元名について

- 「領域」「単元名」を記載します。

単元とは

- 1 スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴→（単元）
- ア スポーツの歴史的発展と変容→（小単元）
- イ スポーツの技術、戦術、ルールの変化
- ウ オリンピックムーブメントとドーピング
- エ スポーツの経済的効果とスポーツ産業



2 対象 年 組 名

3 期間 平成 年 月 日（ ）～ 月 日（ ）

4 場所

5 学習指導要領の内容

学習指導要領の内容

- 『高等学校学習指導要領の内容』を記載します。



6 単元の目標

(1)

単元の目標

- （単元名）を具体的な大単元名に変えて、評価の観点別で記載します。

- (1) 「関心・意欲・態度」
- (2) 「思考・判断」
- (3) 「知識・理解」

(2)

- 入学年次（1年次）

(1) （単元名）について、課題を解決するための活動などを通して、学習に自主的に取り組もうとすることができるようにする。

(2) （単元名）について、学習した知識を活用したり応用したりすることができるようにする。

(3) （単元名）について、理解することができるようにする。

(3)

- その次の年次以降

(1) （単元名）について、課題を解決するための活動などを通して、学習に主体的に取り組もうとすることができるようにする。

(2) （単元名）について、学習した知識を活用したり応用したりすることができるようにする。

(3) （単元名）について、理解することができるようにする。

Q1 P 1

「学習指導と評価の計画とは」

Q2 P 11

「体育学習の単元とは」

Q3 P 11

「単元計画とは」

Q4 P 12

「単元の目標とは」

Q5 P 12

「入学年次・その次の年次以降の単元の目標はどのように立てればよいか」

Q6 P 14

「単元の目標が入学年次とその次の年次以降で違うのはなぜか」

記 載 例

保健体育科（体育分野 知識に関する領域）学習指導と評価の計画

指導者 体育 二郎

【単元計画】

1 単元名 H 体育理論 1 スポーツの歴史、文化的特性や現代スポーツの特徴

2 対 象 1年1組 38名

3 期 間 平成25年5月1日（水）～5月22日（水）

4 場 所 1年1組教室

5 学習指導要領の内容

(1) スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴について理解できるようにする。

ア スポーツは、人類の歴史とともに始まり、その理念が時代に応じて変容してきていること。また、我が国から世界に普及し、発展しているスポーツがあること。

イ スポーツの技術や戦術、ルールは、用具の改良やメディアの発達に伴い変わり続けていること。

ウ 現代のスポーツは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしており、その代表的なものにオリンピックムーブメントがあること。また、ドーピングは、フェアプレイの精神に反するなど、能力の限界に挑戦するスポーツの文化的価値を失わせること。

エ 現代のスポーツは、経済的な波及効果があり、スポーツ産業が経済の中で大きな影響を及ぼしていること。

6 単元の目標

(1) スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴について、課題を解決するための活動などを通して、学習に自主的に取り組もうとすることができるようにする。

(2) スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴について、学習した知識を活用したり応用したりすることができるようにする。

(3) スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴について、理解することができるようにする。

7 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
【観察】	【学習ノート】 【観察】	【学習ノート】 【観察】
①スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴について、意見交換をしたり、自分の考えを発表したりするなどの活動を通して、学習に自主的に取り組もうとしている。	①スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴について、必要な情報を比較したり、分析したりしてまとめた考えを説明している。	①スポーツは、世界各地で日常の遊びや労働などの生活から生まれ、次第に発展し今日に至っていること、歴史的な変遷を経て、現代では、競技だけでなく、体操、武道、野外運動、ダンスなど広く身体表現や身体活動を含む概念として、スポーツが用いられるようになってきていること。また、近年では、諸外国に普及、発展している日本発祥のスポーツがあることについて、言ったり書き出したりしている。 ②スポーツの技術や戦術、ルールは、用具や用品、施設などの改良によって変わり続けていること、特に現代では、テレビやインターネットなどのメディアの発達などによっても影響を受けていることについて、言ったり書き出したりしている。 ③現代のスポーツは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしており、その代表的なものにオリンピックムーブメントがあること、オリンピックムーブメントは、オリンピック競技大会を通じて、人々の友好を深め世界の平和に貢献しようとするものであること。また、競技会での勝利によって賞金などの報酬が得られるようになるとドーピング（禁止薬物使用等）が起こるようになったこと、ドーピングは不当に勝利を得ようとするフェアプレイの精神に反する不正な行為であり、能力の限界に挑戦するスポーツの文化的価値を失わせる行為であることについて、言ったり書き出したりしている。 ④現代におけるスポーツの発展は、例えば、スポーツ用品、スポーツに関する情報やサービス、スポーツ施設などの広範な業種から構成されるスポーツ産業を発展させたこと、現代のスポーツ産業は経済活動に大きな影響を及ぼしていることについて、言ったり書き出したりしている。

8 指導と評価の計画（6時間）

時間	学習内容（小単元名）	学習活動	関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
1	スポーツの歴史的発展と変容	意見交換・グループワーク	①-1		①
2	スポーツの技術、戦術、ルールの変化	グループディスカッション			②
3	オリンピックムーブメントとドーピング	映像視聴・資料調べ		①-1	③
4		グループディスカッション		①-2	
5	スポーツの経済的効果とスポーツ産業	映像視聴・資料調べ	①-2		④
6		発表			
総括					


9 学習指導の工夫

発表やディスカッションなど知識を活用する活動を取り入れ、知識の定着を図る。

フォーマットと解説

7 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
【観察】	【ノート】 【観察】	【ノート】



単元の評価規準

- 入学年次（1年次）
 - ・「関心・意欲・態度」
（単元名）について、（実際の学習活動の姿）するなどの活動を通して、学習に自主的に取り組もうとしている。
 - ・「思考・判断」
（単元名）について、（実際の学習活動の姿）してまとめた考えを説明している。
 - ・「知識・理解」
（高等学校学習指導要領解説の説明文）について、言ったり書き出したりしている。
- その次の年次以降
 - ・「関心・意欲・態度」
（単元名）について、（実際の学習活動の姿）するなどの活動を通して、学習に主体的に取り組もうとしている。
 - ・「思考・判断」
（単元名）について、（実際の学習活動の姿）して判断し、説明している。
 - ・「知識・理解」
（高等学校学習指導要領解説の説明文）について、理解したことを言ったり書き出したりしている。

※（実際の学習活動の姿）には、具体的な活動を記載します。
 ※（高等学校学習指導要領解説の説明文）には、説明文中に「～理解できるようにする。」と示されている部分の内容を記載します。

Q16 …… P21
「評価規準とは」

Q17 …… P23
「単元の評価規準を設定するには」

Q18 …… P24
「評価から評定にはどのように結び付けられるか」

Q10 …… P17
「体育理論の知識の内容は、どこに示されているか」


Q11 …… P17
「学習過程、指導内容と評価の関係とは」

Q13 …… P19
「どのように評価したらよいか」

Q14 …… P19
「指導と評価の一体化とは」

Q19 …… P25
「学習指導の工夫にはどのようなものがあるか」

8 指導と評価の計画（6時間）

時間	学習内容	学習活動	関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
1	学習内容 ● 『高等学校学習指導要領解説』の小単元名を記載します。	学習活動 ● 学習内容を身に付けるための学習活動を記載します。	単元の評価規準 ● 「7 単元の評価規準」の丸数字を記載します。 ● 評価は、1時間に1～2個程度とします。 ● 毎時間できる限り「知識・理解」の評価の観点を入れるようにします。		
2					
3					
4					
5					
6					
総括					

9 学習指導の工夫

記 載 例

保健体育科（体育分野 知識に関する領域）学習指導と評価の計画

指導者 体育 二郎

【単元計画】

- 1 単元名 H 体育理論 1 スポーツの歴史、文化的特性や現代スポーツの特徴
- 2 対 象 1年1組 38名
- 3 期 間 平成25年5月1日（水）～5月22日（水）
- 4 場 所 1年1組教室
- 5 学習指導要領の内容

- (1) スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴について理解できるようにする。
 - ア スポーツは、人類の歴史とともに始まり、その理念が時代に応じて変容してきていること。また、我が国から世界に普及し、発展しているスポーツがあること。
 - イ スポーツの技術や戦術、ルールは、用具の改良やメディアの発達に伴い変わり続けていること。
 - ウ 現代のスポーツは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしており、その代表的なものにオリンピックムーブメントがあること。また、ドーピングは、フェアプレイの精神に反するなど、能力の限界に挑戦するスポーツの文化的価値を失わせること。
 - エ 現代のスポーツは、経済的な波及効果があり、スポーツ産業が経済の中で大きな影響を及ぼしていること。

6 単元の目標

- (1) スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴について、課題を解決するための活動などを通して、学習に自主的に取り組もうとすることができるようにする。
- (2) スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴について、学習した知識を活用したり応用したりすることができるようにする。
- (3) スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴について、理解することができるようにする。

7 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
【観察】	【学習ノート】 【観察】	【学習ノート】 【観察】
①スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴について、意見交換をしたり、自分の考えを発表したりするなどの活動を通して、学習に自主的に取り組もうとしている。	①スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴について、必要な情報を比較したり、分析したりしてまとめた考えを説明している。	①スポーツは、世界各地で日常の遊びや労働などの生活から生まれ、次第に発展し今日に至っていること、歴史的な変遷を経て、現代では、競技だけでなく、体操、武道、野外運動、ダンスなど広く身体表現や身体活動を含む概念として、スポーツが用いられるようになってきていること。また、近年では、諸外国に普及、発展している日本発祥のスポーツがあることについて、言ったり書き出したりしている。 ②スポーツの技術や戦術、ルールは、用具や用品、施設などの改良によって変わり続けていること、特に現代では、テレビやインターネットなどのメディアの発達などによっても影響を受けていることについて、言ったり書き出したりしている。 ③現代のスポーツは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしており、その代表的なものにオリンピックムーブメントがあること、オリンピックムーブメントは、オリンピック競技大会を通じて、人々の友好を深め世界の平和に貢献しようとするものであること。また、競技会での勝利によって賞金などの報酬が得られるようになるとドーピング（禁止薬物使用等）が起こるようになったこと、ドーピングは不当に勝利を得ようとするフェアプレイの精神に反する不正な行為であり、能力の限界に挑戦するスポーツの文化的価値を失わせる行為であることについて、言ったり書き出したりしている。 ④現代におけるスポーツの発展は、例えば、スポーツ用品、スポーツに関する情報やサービス、スポーツ施設などの広範な業種から構成されるスポーツ産業を発展させたこと、現代のスポーツ産業は経済活動に大きな影響を及ぼしていることについて、言ったり書き出したりしている。

8 指導と評価の計画（6時間）

時間	学習内容（小単元名）	学習活動	関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
1	スポーツの歴史的発展と変容	意見交換・グループワーク	①-1		①
2	スポーツの技術、戦術、ルールの変化	グループディスカッション			②
3	オリンピックムーブメントとドーピング	映像視聴・資料調べ		①-1	③
4		グループディスカッション		①-2	
5	スポーツの経済的効果とスポーツ産業	映像視聴・資料調べ	①-2		④
6		発表			
総括					

9 学習指導の工夫

発表やディスカッションなど知識を活用する活動を取り入れ、知識の定着を図る。

フォーマットと解説

【本時の展開】（ / 時間）

(1) 本時の目標

< >

本時の目標

- 「7 単元の評価規準」から< >に指導する評価の観点と丸数字、評価規準の語尾を「～（ついて理解）できるようにする。」と変えて記載します。


(2) 本時の評価

《 》【 】

本時の評価

- 「7 単元の評価規準」から《 》に評価の観点と丸数字、【 】に評価方法、具体的に評価を見取る活動や内容を記載します。
- 評価は、1時間に1～2個程度とします。
- 毎時間できる限り<知識・理解>の評価の観点を入れるようにします。

(3) 展開

	学習内容・活動	教師の指導・手立てと評価
はじめ	<p>1活動</p> <p>学習内容・活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学習内容を身に付けるための活動を時系列で示します。 	<p>○……</p> <p>教師の指導・手立てと評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「指導」として生徒の活動を促す内容を記載し、「手立て」として生徒の活動をフォローする内容を記載します。 ● 教師の指導・手立ては、語尾を「～する。」とし「～させる。」は用いないようにします。
分	<p>学習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 本時の指導内容と学習内容がリンクしているか、学習内容が活動になっていないか確認します。 ● 本時の指導内容の「知識・理解」の内容の語尾を「～こと。」と記載します。 ● 各活動ごとに分けて記載してもよいです。 	
なか	<p>【学習内容】</p> <p>2活動</p> <p>【発問】</p> <p>< ></p> <p>本時の学習の学習内容に即した活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ● < >に指導内容の評価観点と丸数字を記載します。 ● 学習内容に即した活動を記載します。 	<p>発問</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 意識を喚起させる【発問】と【予想される答え】を整理しておきます。 ● 思考を促す【発問】と【予想される答え】を整理しておきます。 ● 知識を定着させる【発問】と【予想される答え】を整理しておきます。 ● 【発問】は、指導の流れを作るもので、必ず示さなければならないわけではありません。
分	<p>3活動</p> <p>【発問】</p> <p>< ></p> <p>○・</p> 	<p>《 》</p> <p>本時の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 《 》に評価の観点と丸数字を記載します。
まとめ	<p>4 POINT</p> <p>生徒の学習活動を考えるときには、本時の学習内容を生徒がよりよく身に付けることができる活動になっているか、また、本時の評価を見取ることができる活動になっているかを考えることが大切です。</p>	

Q20 …… P27

「時案とは」

Q21 …… P27

「本時のねらい（目標）とは」

Q22 …… P27

「本時の評価とは」

Q23 …… P28

「学習内容とは」

Q24 …… P30

「学習活動とは」

Q25 …… P30

「発問とは」

Q26 …… P31

「つまづいている生徒への手立てとは」

記 載 例

【本時の展開】（1/6時間）

（1）本時の目標

＜関心・意欲・態度①－1＞

スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴について、意見交換をしたり、自分の考えを発表するなどの活動を通して、学習に自主的に取り組もうとすることができるようにする。

＜知識・理解①＞

スポーツは、世界各地で日常の遊びや労働などの生活から生まれ、次第に発展し今日に至っていること、歴史的な変遷を経て、現代では、競技だけでなく、体操、武道、野外運動、ダンスなど広く身体表現や身体活動を含む概念として、スポーツが用いられるようになってきていること。また、近年では、諸外国に普及、発展している日本発祥のスポーツがあることについて、言ったり書き出したりすることができるようにする。

（2）本時の評価

≪関心・意欲・態度①－1≫【観察】グループワークでの意見交換の取組みの様子

≪知識・理解①≫【ノート】教師の説明後にまとめた知識に関する記載内容

（3）展開

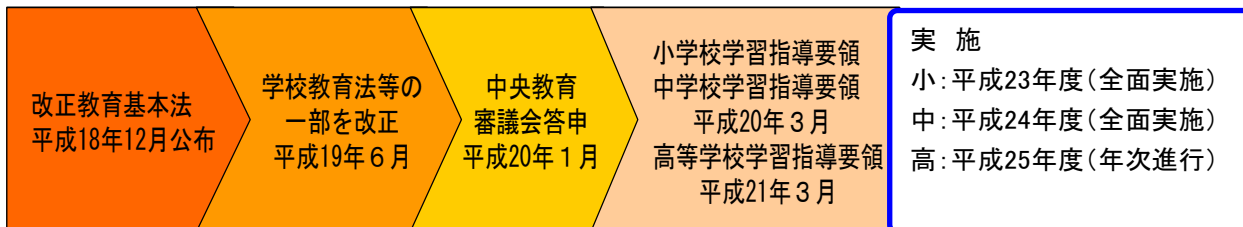
	学習内容・活動	教師の指導・手立てと評価
はじめ 5分	1 挨拶・出席確認 2 本時の説明 3 中学校での学習の確認	○ 生徒の出席確認を行い、健康状態を把握する。 ○ 本時の学習のねらいや授業の進め方、健康・安全への配慮を説明する。 ○ 中学校では、スポーツが楽しさと必要性から発展したことについて、学習したことを確認する。
なか 40分	【学習内容】スポーツは、世界各地で日常の遊びや労働などの生活から生まれ、次第に発展し今日に至っていること、歴史的な変遷を経て、現代では、競技だけでなく、体操、武道、野外運動、ダンスなど広く身体表現や身体活動を含む概念として、スポーツが用いられるようになってきていること。また、近年では、諸外国に普及、発展している日本発祥のスポーツがあること。	
	【発問】①スポーツはどのように生まれ、どのように発展してきたか。	
	4 ノートに板書を書き写し、説明を聞く。 <知識・理解 ①> 板書 スポーツの誕生と発展 ・日常の遊びや労働から生まれた。 ・スポーツの語源：deportare 気晴らし・休憩・楽しむ・遊び	○ ノートに書き写すよう指導し、説明をする。
	【発問】②現代においてスポーツとして取り上げられているものを話し合いながらすべて書き出してみよう。	
	5 グループディスカッション <関心・意欲・態度 ①－1> ○ グループで話し合いながら書き出す。	≪関心・意欲・態度 ①－1≫の評価 ○ 例を挙げて説明し話し合いが活発になるように指導する。
【発問】③発問②で書き出したスポーツを主な特性や魅力に応じて分類してみよう。		
	○ グループで書き出したスポーツを主な特性や魅力で分類する。 ○ ノートに板書を書き写し、説明を聞く。 板書 スポーツの概念 ・現代におけるスポーツは、単に勝敗を競うものだけでなく、健康の保持増進、体力の向上、表現活動、など多様な目的の下に行われるものである。	○ 様々なアプローチが考えられることを説明する。 例) 勝敗を競う競技、健康の保持増進、体力の向上、表現活動のためなど ○ ノートに書き写すよう指導し、説明をする。
【発問】④日本発祥のスポーツを挙げ、そのうち諸外国に広がって発展しているスポーツにはどのようなものがあるか。		
	○ グループで話し合い、日本発祥のスポーツを挙げ、そのうち諸外国に広がって発展しているスポーツを書き出す。 板書 スポーツの概念 ・日本発祥のスポーツ 柔道・剣道・相撲など	○ グループで話し合い、日本発祥のスポーツを挙げ、そのうち諸外国に広がって発展しているスポーツを書き出すように指導する。 ○ 現代のオリンピックの競技種目の多くは19世紀にイギリスで発祥し発展してきたことにも触れる。
まとめ 5分	6 本時のまとめの説明を聞く。 ○ 本時のまとめをノートに記入する 7 次回の確認を聞く。 8 挨拶	○ 本時のまとめを説明する。 ≪知識・理解 ①≫の評価 ○ 次回の授業のねらい等を説明する。

10 学習指導要領改訂について 1) 2) 3) 4)

○ 学習指導要領改訂について

平成18年12月、教育基本法が改正されました。これは、昭和22年にこれまでの教育基本法が制定されてから約60年、教育をとりまく環境が大きく変わったことによるものです。この改正に伴い、学校教育法等が一部改正されました。

学習指導要領は、これらの法律に基づき、中央教育審議会で審議され改訂されました。学習指導要領には、法的拘束力があり、日本全国どこにおいても同水準の教育を受けることができることを保障しています。



○ 体育科・保健体育科の改善の基本方針

平成20年1月の中央教育審議会の答申において、学習指導要領等の改善について示されました。その中で体育科・保健体育科においてはおよそ次のように示されています。(改善の基本方針は、教科全体に関すること、体育と保健に関することに分けて示されていますが、本ハンドブックでは、体育についてのみ示しています。)

改善の基本方針

体育科・保健体育科については、※その課題を踏まえ、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現することを重視し改善を図る。(中略)学校段階の接続及び発達の段階に応じて指導内容を整理し、明確に示すことで体系化を図る。

体育について

体を動かすことが、身体能力を身に付けるとともに、情緒面や知的な発達を促し、集団的活動や身体表現などを通じてコミュニケーション能力を育成することや、筋道を立てて練習や作戦を考え、改善の方法などを互いに話し合う活動などを通じて論理的思考力をはぐくむことにも資することを踏まえ、それぞれの運動が有する特性や魅力に応じて、基礎的な身体能力や知識を身に付け、生涯にわたって運動に親しむことができるように、発達の段階のまとまりを考慮し、指導内容を整理し体系化を図る。

また、武道については、その学習を通じて我が国固有の伝統と文化に、より一層触れることができるよう指導の在り方を改善する。

※「その課題」として、次のようなことが指摘されています。

運動する子どもとそうでない子どもの二極化

子どもの体力の低下傾向が依然深刻

運動に親しむ資質や能力が十分でない状況

学習体験のないまま領域を選択

図9 「体育の課題」

○ 体育に関する内容及び内容の取扱いの改善の要点

小学校

- ① 指導内容を明確化し、体系化しました。
 - 第1学年から第6学年の指導内容の系統性を踏まえ、領域を7つに整理しました。
 - 各領域の指導内容を整理し、具体的な内容を明確にしました。
- ② 体力の向上を重視しました。
 - 各運動領域において適切な運動の経験を通して、その結果として体力が高まるように、指導の在り方を改善することとしました。
 - 「体づくり運動」は、第1学年からすべての学年において指導することとしました。
- ③ 運動の取り上げ方の弾力化を図りました。
 - 各運動領域で示された内容は、2学年ごとのまとまりの中で、いずれかの学年で取り上げ指導することもできることとしました。（「体づくり運動」を除く）
- ④ 各運動領域の内容は、以下の3点で構成しました。
 - (1) 技能(運動)、(2) 態度、(3) 思考・判断

中学校⁷⁾

- ① 指導内容を体系化しました。
 - 指導内容を第1学年及び第2学年と第3学年に分けて示しました。
 - 第1学年及び第2学年で、すべての領域を履修させるとともに、選択の開始時期を第3学年としました。
 - 第3学年については、「体づくり運動」「体育理論」を履修させるとともに、「器械運動」「陸上競技」「水泳」「ダンス」のまとまりから1領域以上を、「球技」「武道」のまとまりから1領域以上をそれぞれ選択して履修することができるようにすることとしました。
- ② 指導内容を明確化しました。
 - 「体育理論」を除く運動に関する領域を(1) 技能（「体づくり運動」は運動）、(2) 態度及び(3) 知識、思考・判断に整理・統合して示し、指導内容を明確に示しました。
- ③ 領域の取り上げ方の弾力化を図りました。
 - 第1学年及び第2学年においては、「体づくり運動」及び「体育理論」を除く領域は、いずれかの学年で取り上げ指導することもできることとしました。
- ④ 領域名称及び領域構成を改めました。
 - 「体育に関する知識」を「体育理論」と改めました。

高等学校⁸⁾

- ① 指導内容を体系化しました。
 - 入学年次で、「体づくり運動」及び「体育理論」を履修させるとともに、それ以外の領域については「器械運動」「陸上競技」「水泳」「ダンス」のまとまりと、「球技」「武道」のまとまりの中からそれぞれ1領域以上を選択して履修することができるようにすることとしました。
 - その次の年次以降においては、「体づくり運動」及び「体育理論」を履修させるとともに、それ以外の領域については「器械運動」「陸上競技」「水泳」「球技」「武道」「ダンス」の中から2領域以上を選択して履修することができるようにすることとしました。
- ② 指導内容を明確化しました。
 - 運動に関する領域を、「(1) 技能（「体づくり運動」は運動）、(2) 態度及び(3) 知識、思考・判断に整理・統合して示し、指導内容を明確に示しました。
 - 「体育理論」については、指導すべき知識の明確化を図り、各領域の「(3) 知識、思考・判断」との内容の整理及び精選を図り単元を構成しました。

11 学校における体育・保健体育の位置付け^{5) 9)}

高等学校学習指導要領第1章総則第1款の3「学校における体育・健康に関する指導」として、次のように示されています。これを受け、高等学校学習指導要領総則編では、教科としての保健体育科として、次のように示しています。また、小学校、中学校学習指導要領及び学習指導要領解説においても同様の内容が示されています。

学校における体育・健康に関する指導は、体育・保健体育の時間はもとより、学校教育活動全体として、家庭や地域社会との連携を図りながら取り組むことが求められています。

体育・保健体育科では、基礎的な身体能力（体力・技能）の育成を図るとともに、学校教育全体として効果的に、児童・生徒の体育・健康に関する指導ができるよう取り組む必要があります。中学校・高等学校では、保健体育科教員の専門的な知識を生かし、その中核を担うことが考えられます。

学校における体育・健康に関する指導は、生徒の発達の段階を考慮して、学校の教育活動全体を通じて適切に行うものとする。特に、学校における食育の推進並びに体力の向上に関する指導、安全に関する指導及び心身の健康の保持増進に関する指導については、保健体育科はもとより、家庭科、特別活動などにおいてもそれぞれの特質に応じて適切に行うよう努めることとする。また、それらの指導を通して、家庭や地域社会との連携を図りながら、日常生活において適切な体育・健康に関する活動の実践を促し、生涯を通じて健康・安全で活力ある生活を送るための基礎が培われるよう配慮しなければならない。

高等学校学習指導要領 第1章総則 第1款の3 「学校における体育・健康に関する指導」
 ※小学校は保健体育科が体育科に、中学校は家庭科が技術・家庭科に表記が変わります。

教科としての保健体育科において、基礎的な身体能力の育成を図るとともに、体育祭などの体育的行事、集団宿泊活動や集会などの特別活動や運動部活動などの教育課程外の学校教育活動などを相互に関連させながら、学校教育活動全体として効果的に取り組むことが求められている。

高等学校学習指導要領解説 ※小学校、中学校は、下線部がそれぞれの教育活動の表記に変わります。

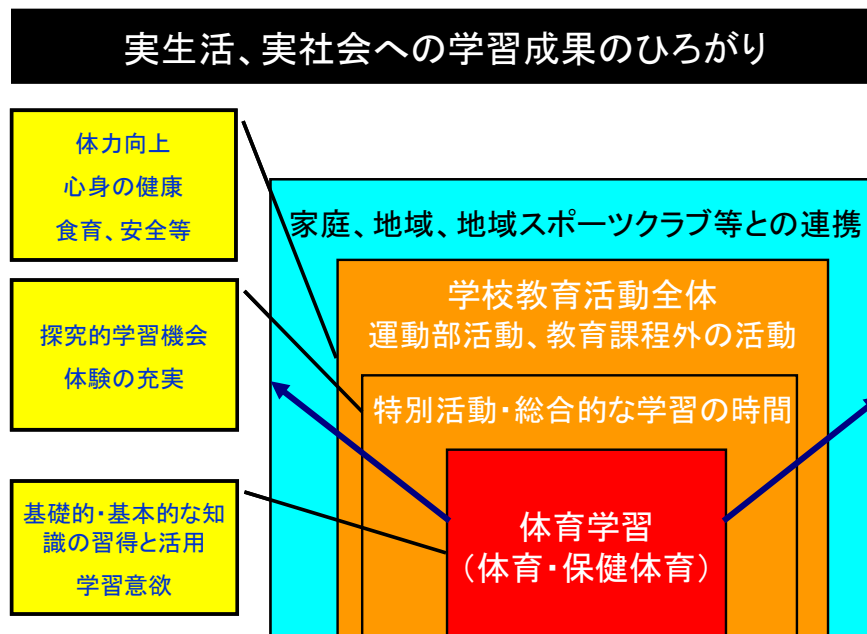


図10 「体育科、保健体育科のイメージ」
 鹿屋体育大学教授 佐藤 豊 一部改変

教科としての体育科、保健体育科において、基礎的な身体能力（体力・技能）の育成を図るとともに、特別活動や教育課程外の学校教育活動などを相互に関連させながら、学校教育活動全体として効果的に取り組むことが求められています。

<引用・参考文献>

- 1) 「教育基本法について」（規定の概念） 文部科学省
http://www.mext.go.jp/b_menu/kihon/about/06121913/001.pdf
- 2) 「学校教育法等の一部を改正する法律について」（通知） 平成19年7月 文部科学省
- 3) 「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」
中央教育審議会答申 平成20年1月 文部科学省
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/information/1290361.htm
- 4) 「小学校体育（運動領域）まるわかりハンドブック」 文部科学省
http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/jyujitsu/1308041.htm
- 5) 「高等学校学習指導要領」 平成21年3月告示 文部科学省
- 6) 「小学校学習指導要領解説」 体育編 平成20年8月 文部科学省
- 7) 「中学校学習指導要領解説」 保健体育編 平成20年9月 文部科学省
- 8) 「高等学校学習指導要領解説」 保健体育編・体育編 平成21年12月 文部科学省
- 9) 「平成23年度神奈川県立体育センター研究発表会 基調講演資料」 平成24年3月
鹿屋体育大学教授 佐藤 豊
- 10) 「平成22年度神奈川県立体育センター保健体育授業に役立つ研修講座（中・高等学校の部）
講義資料」 平成22年12月 鹿屋体育大学教授 佐藤 豊
- 11) 「楽しい体育理論の授業をつくろう」 平成23年8月 佐藤 豊・友添 秀則 大修館書店
- 12) 「第24回神奈川県学校体育研究連合会研究大会 記念講演資料」 平成24年3月
文部科学省スポーツ・青少年局体育参事官付教科調査官 白旗 和也
- 13) 「体育・保健体育学習指導案（単元計画・時案）作成支援ツール」 平成23年4月
神奈川県立体育センター <http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f370356/>
- 14) 「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【小学校 体育】」
平成23年11月 http://www.nier.go.jp/kaihatsu/hyouka/shou/09_sho_taiiku.pdf
- 15) 「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【中学校 保健体育】」
平成23年11月 http://www.nier.go.jp/kaihatsu/hyouka/chuu/08_chu_hoken_taiiku.pdf
- 16) 「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【高等学校 保健体育】」
平成24年7月 http://www.nier.go.jp/kaihatsu/hyouka/kou/06_kou_hokentaiiku.pdf
- 17) 「保健学習ハンドブック<改訂版>」 平成24年3月 神奈川県立体育センター
- 18) 「高等学校 保健体育 学習評価ハンドブック」 平成19年4月 神奈川県立体育センター
- 19) 「高等学校保健体育マネジメント研修講座資料」 平成24年7月
鹿屋体育大学教授 佐藤 豊
- 20) 「体育学習における技能系統に関する研究」 平成21年3月 神奈川県立体育センター
<http://www.pref.kanagawa.jp/uploaded/attachment/2404.pdf>

高等学校 保健体育
体育学習ハンドブック
～学習指導と評価の計画作成の手引き～

発行
平成25年3月
発行者
神奈川県立体育センター
〒251-0871 神奈川県藤沢市善行7-1-2
TEL (0466) 81-2570 (代表)
